

第1章 事業計画

第1節 津田川の概要

1.1 事業の概要

(1) 事業の大要

門入ダムは、津田川水系梅壇川の香川県大川郡寒川町門入地先に多目的ダムとして建設するもので、津田川総合開発の一環をなすものである。

ダムは、重力式コンクリートダムとして高さ 47.3 m、総貯水容量 2,900,000 m³、有効貯水容量 2,780,000 m³で、洪水調節、流水の正常な機能の維持および水道用水の供給を目的とするものである。

・洪水調節

ダム地点の計画高水流量60 m³/secのうち40 m³/secの洪水調節を行い、津田川沿岸地域の被害を防除する。

・流水の正常な機能の維持

ダム地点下流の梅壇川沿岸の既得用水の補給を行うなど、流水の正常な機能の維持と増進を図る。

・水道用水

寒川町に対し、門入ダム地点において水道用水として、新たに1,500 m³/日(0.017 m³/sec)の取水を可能ならしめる。

(2) 事業の必要性

津田川は、急流のため古くより出水のたびに被害が発生し、莫大な災害をもたらしている。このため、昭和38年には大川ダムが竣工し、30 m³/secの洪水調節を、また、昭和41年より土井川改良工事、昭和48年より古川改良工事などが行われ、治水安全度の向上が図られてきた。

その後、昭和51年9月の台風17号により死者 8 名、流失・浸水家屋 1,492 戸、被害総額 1,763百万円、昭和62年10月の台風19号により浸水家屋 815 戸、被害総額 1,630百万円など、毎年のように河岸の決壊、氾濫を繰り返してきた。さらに、沿川の津田町、大川町の市街化が著しく進み、洪水被害は、増加の傾向にあり、地元住民は、抜本的な治水対策を強く望んでいた。

このため、最近の降雨資料を加えて、治水安全度を見直した結果、基準地点（城北橋）において現況の流下能力380 m³/secに対し、基本高水のピーク流量が490 m³/secとなった。

本河川の沿川は、耕地として高度に利用され、市街地周辺では住家が密集し、用地の取得が極めて困難であり、河道拡幅による再改修は不可能に近い。このため、ダムによる洪水調節が最も意義があり、かつ、経済的な状況にある。

また、津田川は、寒川・大川・津田町の耕地および生活用水の水源として広く利用されているが、昭和48年、昭和53年など夏期において、しばしば深刻な水不足に見舞われているため、不特定補給を行い、流水の正常な機能の維持を図る必要がある。

寒川町では、近年生活用水の増加、地場産業の発展により水道用水の需給の急増が予想されている。現況の水源は、津田川の表流水と地下水によっているが、取水可能量は、限度に達しており、新たな水源の確保が強く望まれていた。

このように治水はもとより利水においても早急な対策が望まれており、門入ダム計画には大きな期待が寄せられている。

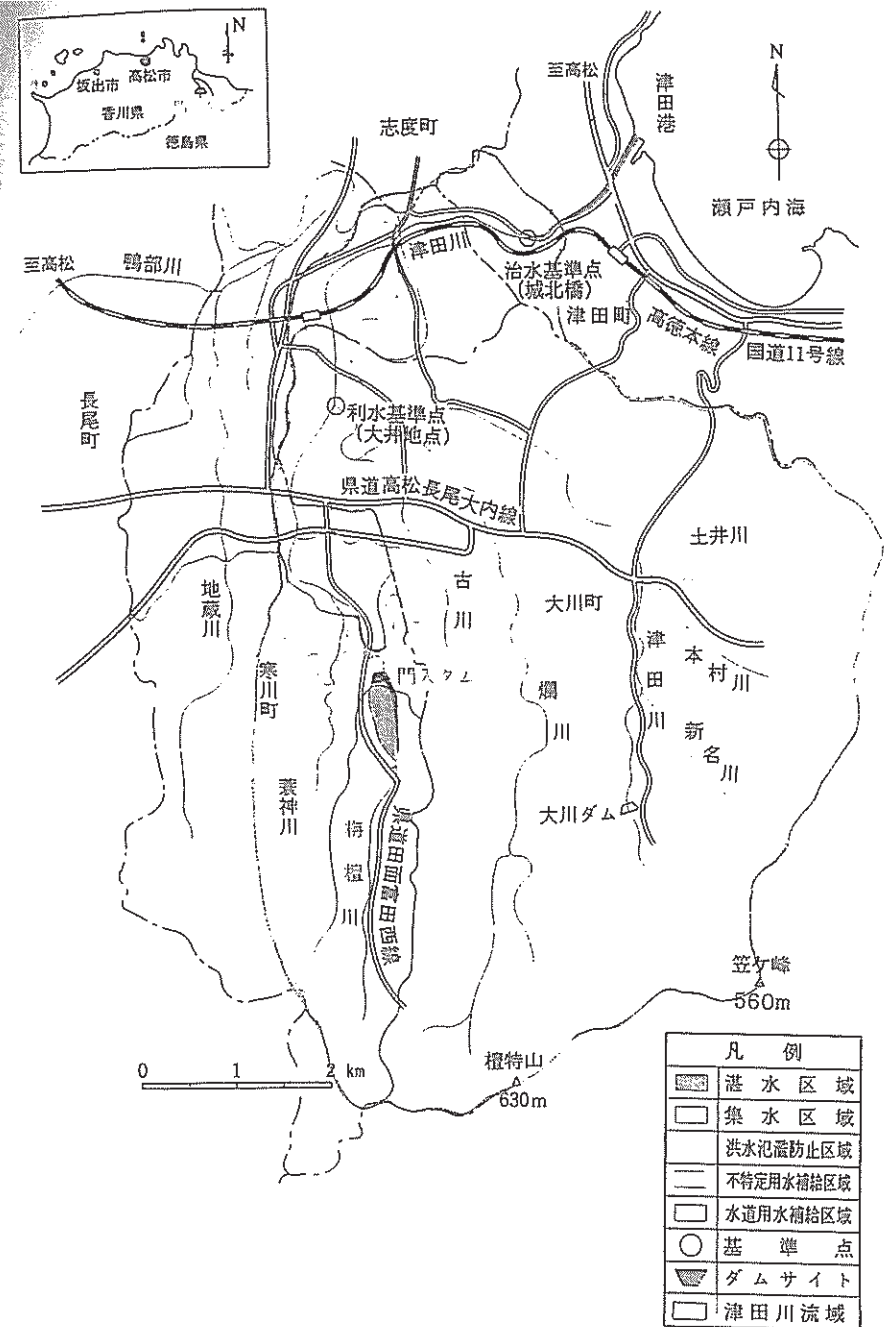


図 1-1 流域一覽

1. 2 流域の概要

津田川は、香川県大川郡に位置し、その源を大川町と白鳥町との町境笠ヶ峰(標高560 m)に発し、大川町をほぼ北流し、途中、新名川・本村川・土井川を合流しながら流下し、その後、燭川・古川・梅檀川を合流して寒川町・津田町を貫流し、県最大の漁港である津田港に注ぐ、流域面積43.7 km²、流路延長15.0 kmの2級河川である。

津田川流域は、瀬戸内気候を示し、年間を通じ温暖で降雨量は梅雨期、台風期に多く、とくに、台風期の豪雨により災害が多く発生している。

津田川下流部にある寒川・大川・津田町は、米・麦・そ麦の生産、ならびに内水面を利用した養殖漁業などが盛んである。さらに、最近に至り、住宅建設・工場誘致・全国的に有名な津田の松原に代表される観光都市化など、沿岸の土地利用の高度化が進んでいる。

流域の年平均降水量は、約1,200 mm、年平均気温が15.0℃である。

1. 3 調査の概要

門入ダムの調査は、昭和50年度より県単独調査費により、地形地質調査を中心にを行い、昭和55年度から河川総合開発事業費により実施した。

実施計画調査最終年度にあたる昭和63年度までの調査の概要は、表 1-1 に示す。

表 1-1 調査一覧表

年度	調査費 (千円)			水文調査			地形調査			地質調査				諸調査	摘要
	河川総合 開発事業	県	合計	雨量 ヶ所	水位 流量 ヶ所	実測 km ²	航測 km ²	縦 横断 km	概査 km ²	試験 本, m	試験 本, m	試験 本, m	物探 km		
50		1,200	1,200				2.8							利水状況	
51		1,500	1,500												
52		6,500	6,500						2.0				1.9	事業計画書	
53		4,000	4,000												
54		4,900	4,900							3 105					
55	30,000		30,000	1	1	0.2				8 410				工事用道路 概略設計	
56	40,000		40,000			0.7				12 650				地質解析 利水解析	
57	48,000		48,000							12 565					
58	50,000		50,000					1.2		7 310	3 140			地質解析 治水解析	
59	60,000		60,000				1.3	5.5		7 330	1 20			本体概略設計 地質解析	
60	70,000		70,000							5 280	2 30			施工計画及仮 設橋概略設計	
61	80,000		80,000							21 531				地質解析	
62	80,000		80,000					4.5		6 355				辰石山調査	
63	100,000		100,000							4 280	1 50		1.5	地質総合解析	
計	558,000	18,100	576,100	1	1	0.9	4.1	11.2	2.0	85 3,816	7 240		3.4		

1. 4 ダムサイト地質の概要

本地域の地質は、内帯に属し、ダムサイトの地質は、白亜紀の花崗岩類からなる基盤岩とこれらを被覆する崖錐堆積物・河床堆積物からなる。

地 形・・・河床幅の広いU字状の谷地形をなし、左右岸の山腹勾配は、40度と急峻である。

崖 錐・・・主に左岸山腹の山裾部に、崩壊土砂が分布し、層厚は、数m程度である。

基礎地質・・・ダムサイトは、黒雲母花崗岩と優白質花崗岩の花崗岩類からなる。

断 層・・・大きい断層は確認されていない。

風 化・・・左右岸ともに山腹には、岩盤が露出しており、風化帯は、全体に薄いことを確認している。

第2節 工事実施基本計画

津田川水系工事実施基本計画については、平成3年4月30日建設省に認可された。

(1) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

津田川水系は、その源を香川県大川郡大川町の笠ヶ峰・壇特山に発し、本村川、大条川、土井川、欄川、古川、格壇川、谷川等の支川を合わせ津田町において津田湾に注いでいる。

その流域は、大川町、寒川町、津田町の3町にまたがり面積約43.7km²を有し、この地方における社会・経済の基盤をなしている。従って、本水系の治水と利水についての意義はきわめて大きい。

本水系の治水事業は、昭和28年の9月の大出水を契機として、昭和32年より大川ダムの建設に着手して、昭和38年にはこれを完成させた。

また、昭和51年の台風9号の出水を契機として昭和55年度より津田川中小河川改修として、城北橋地点における計画高水流量を380m³/secと定め河口から宮内橋までの築堤、掘削等を実施してきた。

利水については、農業用水として約340haの耕地のかんがい利用されている。

本水系における河川の総合的な保全と利用に関する基本方針としては、河川工事の現状、砂防・治山工事の実施、水害発生の状況及び河川の利用の現状並びに河川環境の保全を考慮し、関連地域の社会経済情勢の発展に即応するよう香川県県民福祉総合計画等との調整を図り、かつ、土地改良事業等の関連工事及び既存の利水施設等の機能の維持を十分配慮して、水源から河口まで一貫した計画のもとに、次のように工事を実施するものとする。

保全に関しては、大川町、寒川町、津田町の沿川地域を洪水から防御するため、上流にはダム群を建設し、河道については、築堤・掘削を施工して河積を増大するとともに護岸等を施工する。

さらに、河川環境の計画的な保全と整備を図る。

利用に関しては、諸用水の需要の増大に対処するため、水資源の合理的な利用の促進を図る。

(2) 河川の工事の実施の基本となるべき計画に関する事項

1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節ダムの配分に関する事項

基本高水のピーク流量は、基準地点城北橋において490m³/secとし、このうち上流ダム群により110m³/secを調節して、河道への配分流量を380m³/secとする。

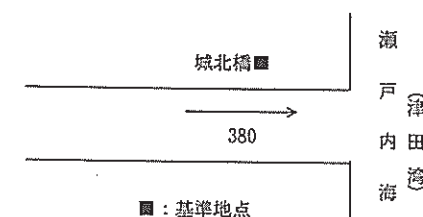
基本高水のピーク流量等一覧表

(単位：m³/sec)

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	ダムによる調節流量	河道への配分流量
津田川	城北橋	490	110	380

2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

津田川における計画高水流量は、基準点城北橋地点において380m³/secとする。

津田川計画高水流量配分図 (単位：m³/sec)

3) 主要地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

津田川における水利用としては、農業用水がある。

流水の正常な機能を維持するため必要な流量は、大井地点で0.12m³/secとする。

(3) 河川工事の実施に関する事項

1) 主要な地点における計画高水位、その他河道計画に関する重要な事項

① 計画高水位

本水系の主要な地点における計画高水位は次のとおりとする。

主要な地点における計画高水位一覧表

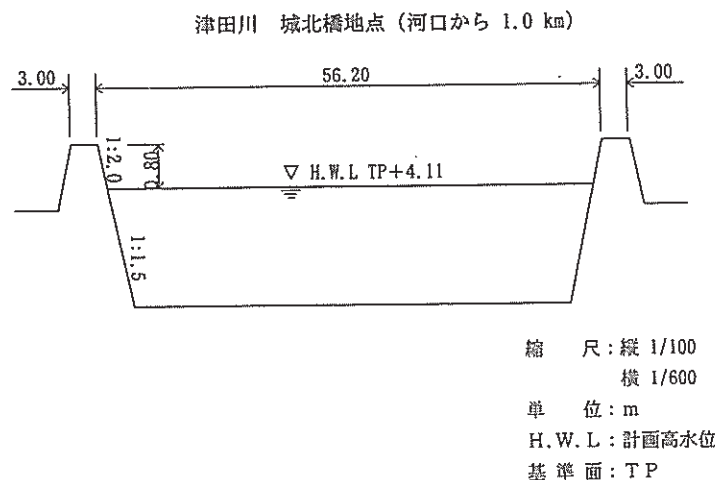
河川名	地点名	河口または合流点からの距離(km)	計画高水位 TP(m)	摘要
津田川	城北橋	河口から 1.0	4.11	

注) TP：東京湾中等潮位

② 計画横断形

本水系の主要な地点における河道の計画横断形及び堤防の計画標準横断形は、次図のとおりとする。

なお、堤防は必要に応じ計画標準横断形に加えて拡幅するものとする。



③ 堤防高

津田川における堤防高は、計画高水位に0.8mを加えたものとする。

2) 主要な河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施行により設置される主要な河川管理施設の機能の概要

上流の大川ダム、門入ダム等により洪水を調節し下流の洪水の軽減を図るとともに、各種用水の補給を行う。

河道については、築堤、掘削、護岸等を施工して、洪水の安全な流下を図る。また、河川環境の計画的な保全と整備を図るための工事を行う。

第3節 門入ダム全体計画

門入ダムの建設事業全体計画については、平成3年12月25日建設省に認可された。

(1) 建設の目的

1) 洪水調節

門入ダムの建設される地点における計画高水流量毎秒 60立方メートルのうち毎秒40立方メートルの洪水調節を行う。

2) 流水の正常な機能の維持

ダム地点下流の津田川沿岸の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。

3) 水道

寒川町に対し、門入ダム地点において新たに1日最大1,500立方メートルの水道用水の取水を可能ならしめる。

(2) 位置及び名称

1) 位 置

津田川水系梅壇川

右岸 香川県大川郡寒川町門入地先

左岸 同 上

2) 名 称

門入ダム

(3) 規模及び形式

1) 規 模

堤高 47.0メートル（47.3メートル）

2) 形 式

重力式コンクリートダム

(4) 貯留量、取水量及び放流量並びに貯留量の用途別配分に関する事項

1) 貯留量

① 総貯留量

最高水位は、標高103.5メートルとし、総貯水量は、2,900,000立方メートルとする。

② 有効貯留量

最低水位は、標高 80.2メートルとし、有効貯留量は、総貯留量のうち標高 103.5メートルから標高 80.2メートルまでの有効水深 23.3メートルに対応する貯留量 2,780,000立方メートルとする。

2) 取水量及び放流量並びに貯留量の用途別配分

① 洪水調節

洪水期（7月1日から10月31までの期間をいう。以下同じ。）においては、洪水調節を行う場合をのぞき、水位を標高99.6メートル以下に制限するものとする。

洪水調節は、標高103.5メートルから標高99.6メートルまでの容量760,000立方メートルを利用して行うものとする。

なお、洪水調節は、非洪水期（毎年11月1日から翌年6月30日までの期間をいう。以下同じ。）においても予備放流により行うことができるものとする。

② 流水の正常な機能の維持

流水の正常な機能の維持と増進を図るための貯留量は、洪水期においては、標高99.6メートルから標高80.2メートルまでの容量2,020,000立方メートルのうち最大1,520,000立方メートルとし、非洪水期においては、標高100.2メートルから標高80.2メートルまでの容量2,120,000立方メートルのうち最大1,590,000立方メートルを利用して行うものとする。

③ 水道

寒川町の水道用水としてダム地点において、新たに1日最大1,500立方メートルの取水を可能ならしめる。

寒川町の水道用水のための貯留量は、洪水期においては、標高99.6メートルから標高80.2メートルまでの容量2,020,000立方メートルのうち最大500,000立方メートルとし、非洪水期においては、標高100.2メートルから標高80.2メートルまでの容量2,120,000立方メートルのうち最大530,000立方メートルを利用して行うものとする。

(5) 建設に要する費用及びその負担に関する事項

1) 建設に要する費用の概算額

約 104 億円 （約 131 億円）

2) 建設に要する費用の負担者及び負担額

① 河川法第59条及び第62条の規定に基づく国及び香川県の負担額

建設に要する費用の額に、1000分の929を乗じて得た額とする。

② 河川法第66条の規定に基づく寒川町（水道）の負担額

寒川町（水道）の負担額は、建設に要する費用の額に、1000分の71を乗じて得た額とする。

(6) 工期

平成元年度から平成8年度までの予定（平成10年度まで）

第4節 ダムおよび貯水池計画

4.1 ダムおよび貯水池

門入ダムの堤体、貯水池、および放流設備の諸元は、つぎのとおりである。

(1) ダム 諸 元

位 置	左岸 香川県大川郡寒川町門入地先
	右岸 "
型 式	重力式コンクリートダム
堤 高	47.3 m
堤 頂 長	202.5 m
堤 体 積	103,000 m ³
非越流標高	EL.106.5 m
勾 配	上流面 1:0.00
	下流面 1:0.78

(2) 貯 水 池

集 水 面 積	3.70 km ²
湛 水 面 積	0.21 km ²
サーチャージ水位	EL.103.5 m
常時満水位	EL.100.2 m
最 低 水 位	EL. 80.2 m
総貯水容量	2,900,000 m ³
有効貯水容量	2,780,000 m ³
洪水調節容量	洪水期 760,000 m ³
	非洪水期 660,000 m ³
利 水 容 量	洪水期 2,020,000 m ³
	非洪水期 2,120,000 m ³
堆 砂 容 量	120,000 m ³

(3) 放流設備

1) 洪水吐

常用洪水吐

洪水期制限水位維持放流管

一面ベルマウス 幅1.80 m×高0.85 m

常時満水位維持放流管

一面ベルマウス 幅1.80 m×高0.95 m

非常用洪水吐

等幅導流水路・側水路型

円弧付台形越流頂 13.0 m/門×4門=52.0 m

ダム設計洪水流量

130 m³/sec

2) その他の放流設備

ゲート・バルブ類

ジェットフローゲート φ600mm 1個

〃 φ350mm 1個

〃 φ100mm 1個

バタフライバルブ φ150mm 1個



図 1-2 ダム平面図

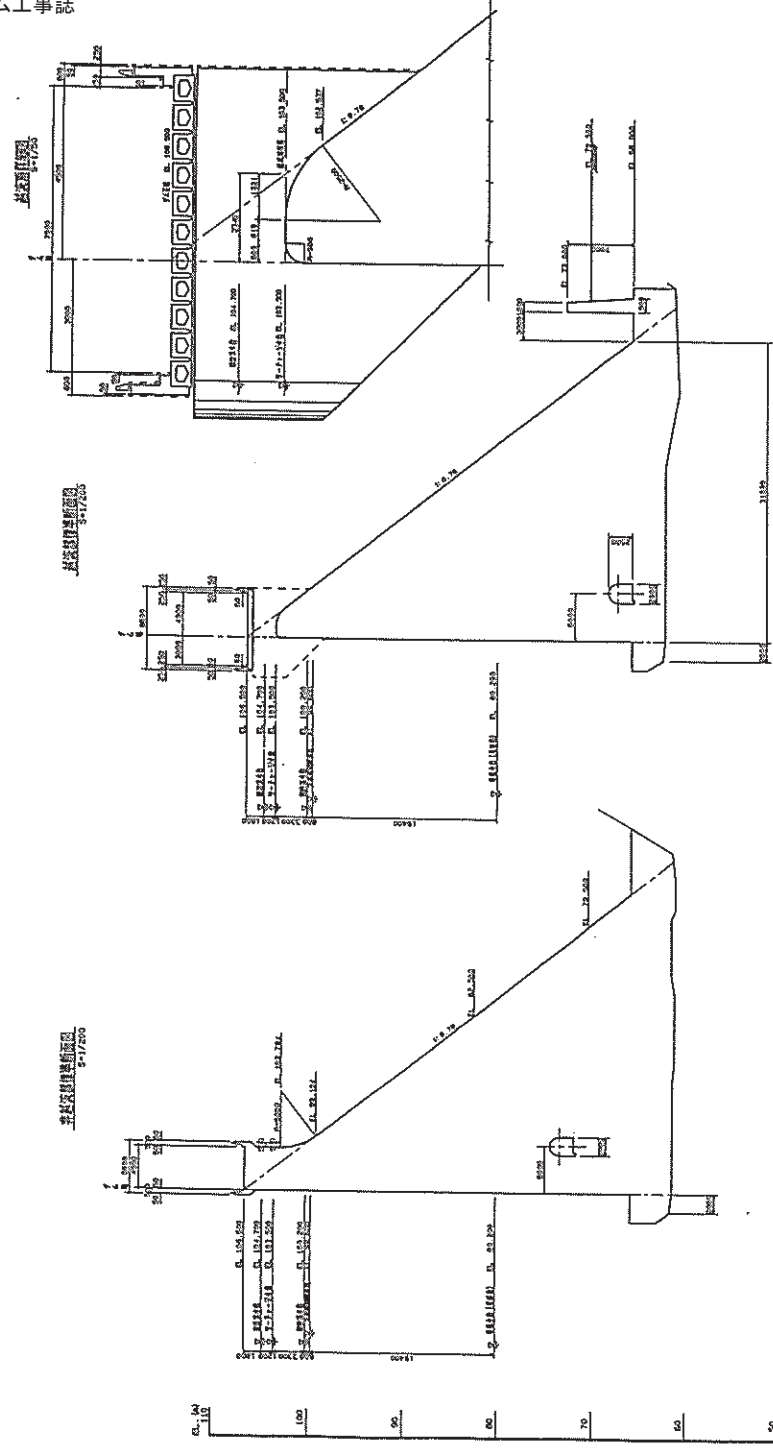
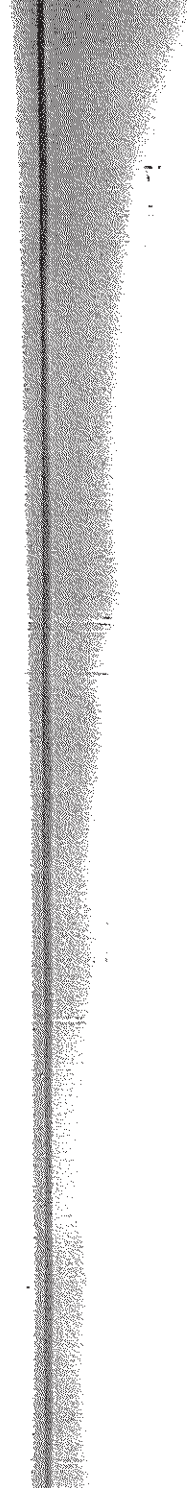


図 1-3 ダム標準断面図



ダム下流断面図

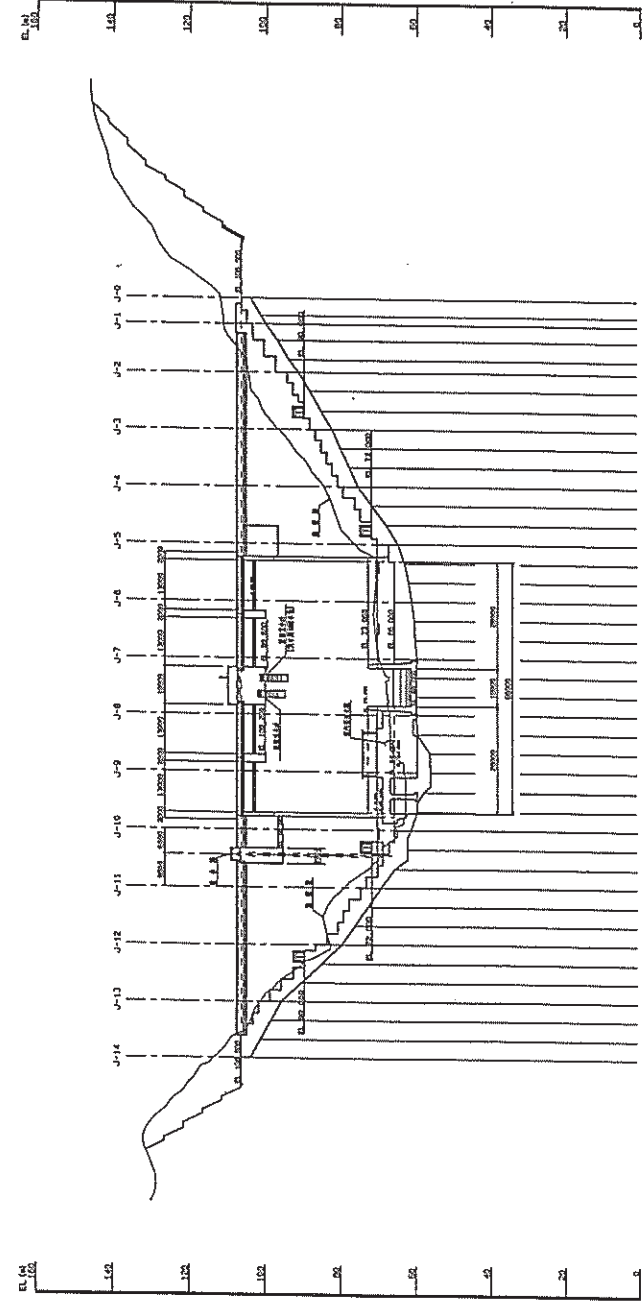


図 1-4 ダム下流断面図

4. 2 洪水調節計画

(1) 概 要

津田川は、従来から出水のたびに被害が発生しており、最近では、昭和51年9月台風17号の出水により、死者8名、流失・浸水家屋1,492戸、浸水農地131ha、昭和62年10月台風19号では、流失・浸水家屋815戸、浸水農地458haなど連年にわたり大きな被害が発生している。

このため、平成3年4月に津田川水系工事実施基本計画を策定した。なお、門入ダムの計画などにより基準地点(城北橋)の基本高水のピーク流量、ならびに計画高水流量が見直された。

(2) 基本高水および計画高水流量

計画の規模は、本河川の重要度より超過確率1/50とし、年最大日雨量をトーマス法により確率処理し、計画日雨量を380mm/日とした。

流出モデルは、貯流関数法を用い、計画降雨波形としては、昭和36年10月の実績降雨を計画降雨量にまで引き伸ばしたものを採用した。基本高水は、算定されたハイドログラフを総合的に検討し、昭和36年10月型の計画降雨波形より定まるハイドログラフとし、基本高水のピーク流量は、基準地点(城北橋)において、490 m³/secとし、計画高水流量は、ダム調節により380 m³/secとした。

河 川 名	計画規模	計画日雨量	基本高水のピーク流量		基本高水タイプ
			ダムサイト	城北橋基準点	
津 田 川	1/50	380 mm/日	60 m ³ /sec	490 m ³ /sec	昭和36年10月型
				(380 m ³ /sec)	

() 計画高水流量

(3) 洪水調節計画

洪水調節計画は、自然調節方式とし、ダム地点における計画高水流量 60 m³/secのうち、40 m³/secを調節し 20 m³/sec(最大 20 m³/sec)を放流するものとし、これに要する容量は760,000 m³である。

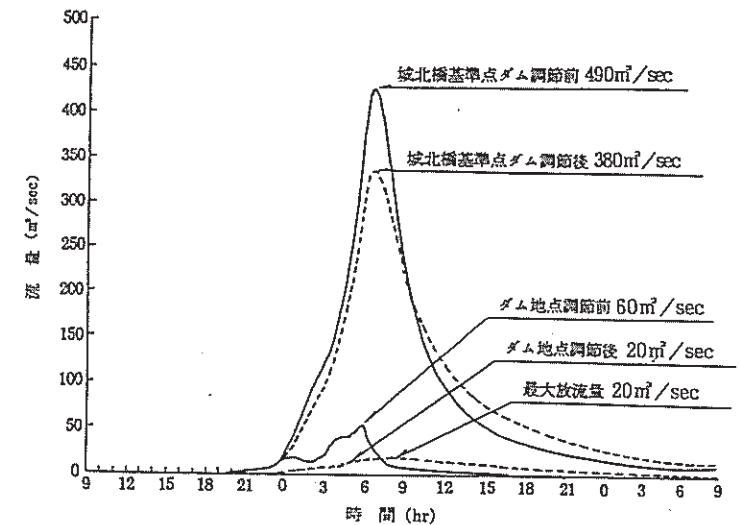


図 1-5 洪水調節図

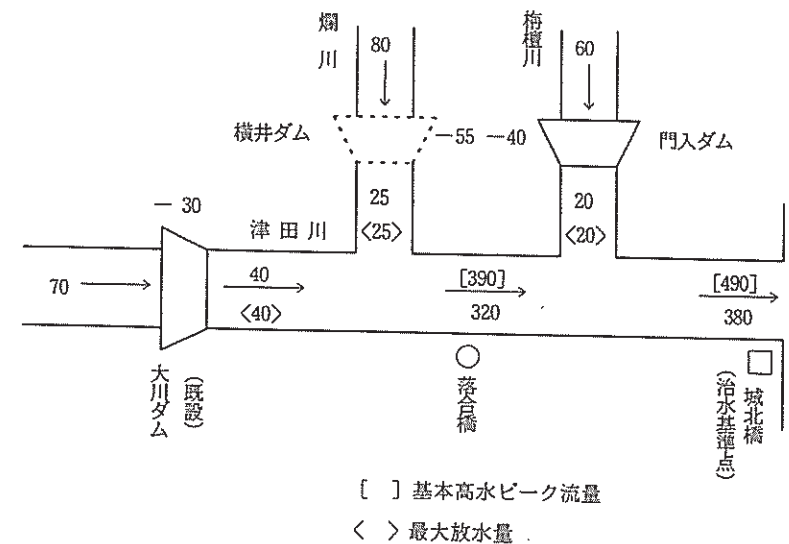


図 1-6 計画高水流量配分図 (単位: m³/sec)

4. 3 不特定用水計画

(1) 現 況

津田川は、大川郡寒川・大川・津田町の耕地などに対する水源として広く利用されているが、昭和48年、昭和53年など夏期においては、しばしば深刻な水不足にみまわれてきた。

表 1-2 計画対象既得用水一覧表

法・慣別	用 水 名	かんがい 面 積 (ha)	用 水 量 (m³/sec)			備 考
			かんがい期 (6/11～9/15)		非かん がい期	
			代かき期最大	普 通 期		
慣	名 庫 頭	0.4	0.0012	0.0007	—	届出(S42.3.28)
慣	大 頭	58.0	0.1761	0.0962	—	〃
慣	丸 遠 頭	0.1	0.0003	0.0002	—	〃
慣	伊 蔵 頭	1.5	0.0046	0.0025	—	〃
慣	上 井 頭	1.5	0.0046	0.0025	—	〃
慣	長原下井頭	1.0	0.0030	0.0017	—	〃
慣	その他 (明神)	18.3	0.0556	0.0304	—	〃
計		80.8	0.2454	0.1342	—	〃

(2) 流水の正常な機能の維持にかかる計画および容量

本計画では、既得用水補給など流水の正常な機能の維持と増進を図るため、昭和25年から昭和62年までの38年間の補給計算を行い、渇水第2位に相当する昭和54年を計画渇水年として、ダム地点において最大 0.257 m³/secを確保することとし、これに要する容量は1,520,000 m³である。

4. 4 水道用水計画

(1) 現況および将来の需要量

寒川町の水道は、津田川の地下水などを利用して給水人口 5,522人(昭和62年3月)、日最大1,758 m³/日を給水している。

しかしながら、渇水年には、日最大 642m³/日の不足を生じており、また、生活用水の増加、地場産業の進展により水道水の需要が増加しており、平成17年度には、給水人口6,240人、日最大3,115 m³/日になると予想され、この不足水源を門入ダムに依存しようとするものである。

表 1-3 水道現況表

(昭和62年度)												
企 業 者 名	給 水 区 域	現計画(昭和62年時点)			現 況							備 考
		行政 区域 内 人口	計画 給水 人口	計画 給水 量	行政 区域 内 人口	給水 人口	普 及 率	一日給水量		給 水 量 一人一日		
								最 大	平 均	最 大	平 均	
寒川町	寒川町	人 6,137	人 6,000	m ³ /日 2,400 ℓ/人・日 400	人 6,137	人 5,522	% 90.0	m ³ /日 1,758	m ³ /日 1,295	ℓ/人・日 318	ℓ/人・日 234	

表 1-4 新規需要内訳書

企業 者 名	給 水 区 域	地 区 人 口	既設水道の給水能力			現在における需要量			現在における不足量			将来需要(平成17年)			
			給 水 量	給 水 人 口	一 給 人 一 水 日 当 量 リ	必 要 供 給 量	給 水 人 口	一 給 人 一 水 日 当 量 リ	給 水 量	給 水 人 口	一 給 人 一 水 日 当 量 リ	17人 年 地 区 推 定 口	計 画 給 水 量	給 水 人 口	一 給 人 一 水 日 当 量 リ
寒川町	寒川町	人 6,137	m ³ /日 1,600	人 6,000	ℓ/人・日 267	m ³ /日 1,758	人 5,522	ℓ/人・日 318	m ³ /日 158	人 5,522	ℓ/人・日 29	人 6,258	m ³ /日 3,115	人 6,240	ℓ/人・日 499

表 1-5 年度別需給計算

	(m ³ /日)				
	昭和62年度	平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度
給水人口	5,522	6,016	6,048	6,228	6,240
需要水量	1,758	2,100	2,353	2,762	3,115
供給水量	1,600	1,600	1,600	3,100	3,100

(2) 供給計画および水道用水容量

寒川町への水道用水として、新たに $1,500 \text{ m}^3/\text{日}$ ($0.017 \text{ m}^3/\text{sec}$) をダム地点で取水可能とする。これに対し、昭和25年～昭和62年までの38年間の補給計算を行い、渇水第2位（昭和54年）を計画渇水年として補給することとして、これに要する容量は $500,000 \text{ m}^3$ である。

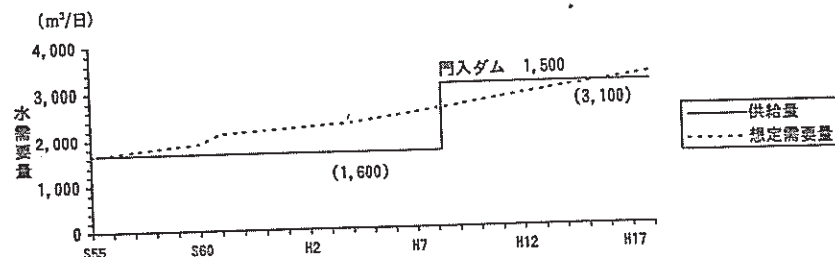


図 1-7 水需要と供給計画図

4. 5 計画堆砂量

門入ダムの堆砂量については、流域の状況、および県内他ダムの実績などを考慮し、比堆砂量を $300 \text{ m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ とし、計画堆砂量は、その100年間の堆砂量、すなわち $120,000 \text{ m}^3$ を算定した。

4. 6 貯水池使用計画

(1) 洪水調節

洪水調節の洪水期(7月1日～10月31日)においては、標高 103.5 m ～標高 99.6 m の間の容量 $760,000 \text{ m}^3$ 、非洪水期(11月1日～6月30日)においては、標高 103.5 m ～標高 100.2 m の間の容量 $660,000 \text{ m}^3$ を利用して調節する。

(2) 流水の正常な機能の維持

下流既得用水の補給など、流水の正常な機能の維持と増進を図るため洪水期(7月1日～10月31日)においては、標高 99.6 m ～標高 80.2 m の間の容量 $2,020,000 \text{ m}^3$ のうち $1,520,000 \text{ m}^3$ 、非洪水期(11月1日～6月30日)においては、標高 100.2 m ～標高 80.2 m の間の容量 $2,120,000 \text{ m}^3$ のうち $1,590,000 \text{ m}^3$ を利用して補給する。

(3) 水道用水

寒川町に対し、洪水期(7月1日～10月31日)においては、標高 99.6 m ～標高 80.2 m の間の容量 $2,020,000 \text{ m}^3$ のうち $500,000 \text{ m}^3$ 、非洪水期(11月1日～6月30日)においては、標高 100.2 m ～標高 80.2 m の間の容量 $2,120,000 \text{ m}^3$ のうち $530,000 \text{ m}^3$ を利用して、新たに $1,500 \text{ m}^3/\text{日}$ ($0.017 \text{ m}^3/\text{sec}$)の取水を可能とする。

(4) 総貯水容量

有効貯水容量は、 $2,780,000 \text{ m}^3$ とし、これに、流域の状況などを考慮した堆砂量は、比堆砂量を $300 \text{ m}^3/\text{km}^2/\text{年}$ とし堆砂容量を $120,000 \text{ m}^3$ とした。したがって、総貯水量は、 $2,900,000 \text{ m}^3$ となる。

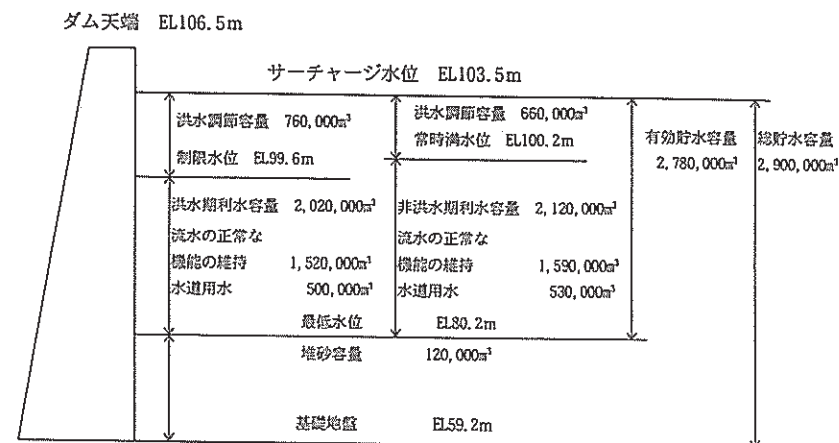


図 1-8 貯水池容量配分図

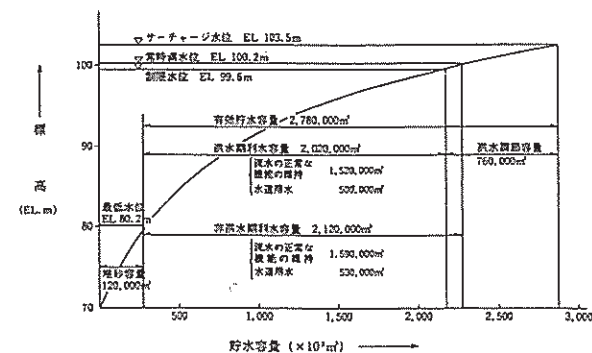


図 1-9 貯水位 - 容量曲線

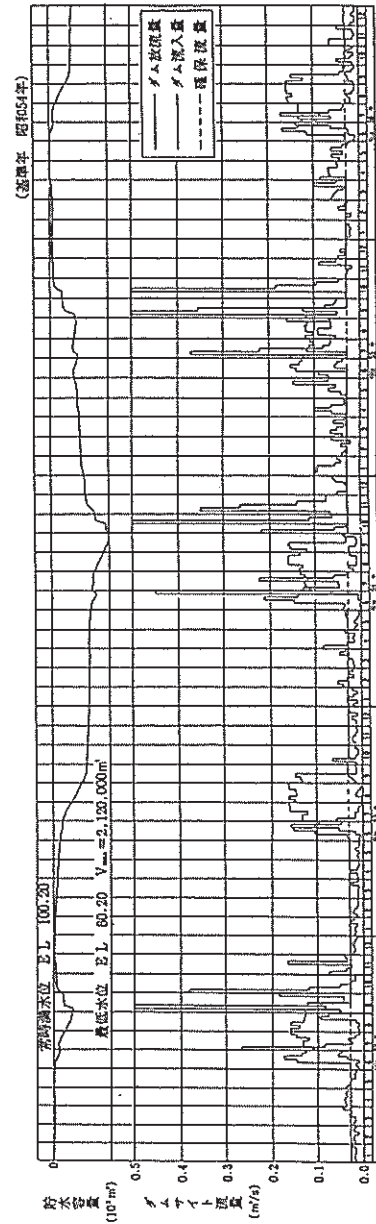


図 1-10 ダム貯水池標準使用水位

第5節 事業費

5.1 事業費

門入ダムは、平成元年度に総事業費104億円で着工した。その工事費の内訳は、表 1-6のとおりである。

表 1-6 事業費 (単位：千円)

項	細 目	工 種	金 額	備 考
建設費			10,017,000	
	工 事 費		7,966,000	
		ダ ム 費	6,879,000	
		管 理 設 備 費	576,000	
		仮 設 備 費	501,000	
		工 事 用 動 力 費	10,000	
	測 量 及 び 試 験 費		752,000	
	用 地 及 び 補 償 費		1,242,000	
		用 地 及 び 補 償 費	515,000	
		補 償 工 事 費	727,000	
	機 械 器 具 費		16,000	
	営 繕 費		41,000	
事務費			383,000	
合 計			10,400,000	

総事業費にかかる補償の概要は、表 1-7に示すとおりである。

表 1-7 補償概要表

種 別	細 別	細 目	単 位	数 量
一般補償	土 地	田	ha	2
		畑	ha	—
		山林・原野	ha	17
		宅 地	m ²	3,400
		宅地見込地	m ²	24,500
	立 竹 木	用 林 材	ha	17
		収 穫 樹	式	1.0
	建 物	住 家	戸	4
		非 住 家	棟	14
特殊補償	漁業権消滅		件	1
	電柱移転		本	27
公共補償	道 路	県 道	km	1.5
		町 道	km	1.1

5. 2 費 用 割 振

(1) 貯水池容量配分

門入ダムの貯水池容量配分は、図 1-11に示すとおりである。

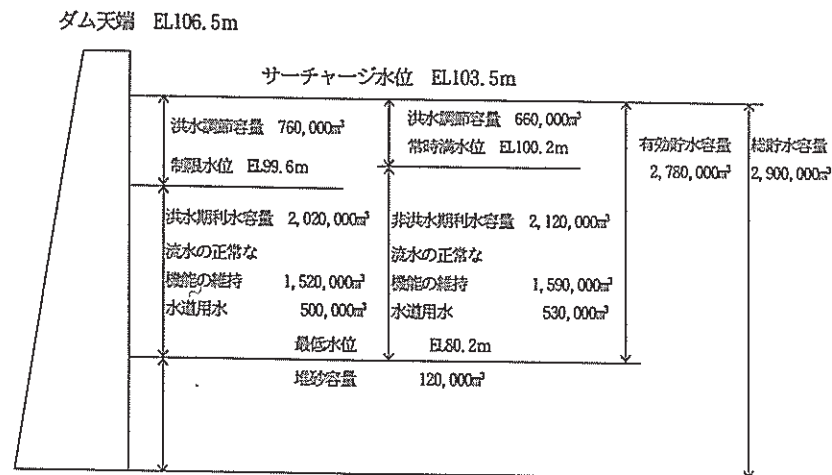


図 1-11 貯水池容量配分図

(2) 身替り建設費

1) 河 川（洪水調節＋流水の正常な機能の維持）

必 要 容 量	760+1,520+120=2,400千m ³
ダ ム 高	49.8 m
建 設 費	9,730百万円

2) 水 道 用 水

必 要 容 量	530千m ³
建 設 費	810百万円（門入池嵩上）

(3) 妥 当 投 資 額

1) 河 川

① 洪水調節

年平均被害軽減額	797百万円
年 経 費	52百万円

妥当投資額	745/0.0464=16,056百万円
② 流水の正常な機能の維持	
身替りの建設費をもって算定	7,850百万円
③ 河川計	23,906百万円
2) 水道用水	
身替りの建設費をもって算定	810百万円
(4) 分離費用	
1) 河川	
他目的容量	2,900 - (760 + 1,520) = 620千m ³
建設費	820百万円
分離費用	10,400 - 820 = 9,580百万円
2) 水道用水	
他目的容量	2,900 - 500 = 2,400千m ³
建設費	9,730百万円
分離費用	10,400 - 9,730 = 670百万円

(5) 費用割振 (単位：百万円)

区 分	河 川	水道用水	計
a. 身替り建設費	9,730	810	
b. 妥当投資額	23,906	810	
c. a, b, いずれか小	9,730	810	
d. 専用費	—	—	
e. (c - d)	9,730	810	
f. 分離費用	9,580	670	10,250
g. 残余便益 (e - f)	150	140	290
h. 同 上 %	51.7	48.3	100.0
i. 残余共同費配分	78	72	150
j. (f + i)	9,658	742	10,400
k. 同 上 %	92.9	7.1	100.0

5. 3 経済性の検討

(1) 洪水防除区域の資産

氾濫防止面積	633 ha		
氾濫防止市町村名	津田町・寒川町・大川町		
区域内人口	9,960 人	鉄 道	3.3km
家 屋	5,730 戸	国 道	2.8km
田	300 ha	県 道	11.5km
畑	30 ha	市町村道	20.0km
その他主要施設	学校6, 郵便局3, 病院2, 駅舎2		

(2) 妥当投資額

1) 治 水	16,056百万円
	797,000 - 52,000 / 0.0464 = 16,056百万円
2) 流水の正常な機能の維持	7,850百万円
合 計	23,906百万円

第10章 機構その他

第1節 概 要

門入ダムの調査は、昭和50年度から昭和54年度まで、県単独調査費として実施され、昭和55年度から公共事業として実施計画調査に入り、昭和63年度、長尾土木事務所建設課の中にダム担当職員3名が配置され、平成元年4月に開発課が設けられた。昭和63年6月に寒川町石田東に建設事務所（千足ダムから移設）が開設され、以来、門入ダム完成を目指して職員一同それぞれの業務の遂行に努めた。

門入ダムの建設年表は、つぎに示すとおり。

昭和55～63年度	実施計画調査に着手
昭和63年6月	門入ダム建設事務所開所
平成元年度	建設事業採択
	地形測量、地質調査、実施設計
	用地買収に着手
平成3年度	付替道路工事に着手
平成5年10月	門入ダム本体工事に着手（H5.10.13契約）
平成6年1月25日	ダム本体安全祈願祭
平成6年10月27日	門入ダム本体基礎掘削開始
平成6年9月2日	仮排水トンネル貫通（L＝189m）
平成6年11月28日	付替県道田面富田西線開通（L＝2,500m）
平成7年5月24日	第1回岩盤検査
平成7年6月6日	門入ダム本体コンクリート初打設
平成7年10月26日	門入ダム本体定礎式
平成8年3月18日	堤体コンクリート5万m ³ 打設達成
平成9年5月28日	門入ダム本体コンクリート最終打設
平成10年3月31日	門入ダム管理事務所完成
平成10年9月1日	仮排水路トンネル閉塞
平成10年11月1日	試験湛水開始
平成11年3月24日	門入ダム竣工式
平成11年3月31日	門入ダム建設事務所開所

第2節 機構および職員

2.1 機構

門入ダム建設事務所の機構の経緯は、つぎのとおりである。

昭和63年6月 門入ダム建設事務所開設
 平成元年4月 長尾土木事務所開発課設置
 平成11年3月 門入ダム建設事務所開設

2.2 職員

事業実施からの組織の移行と職員異動状況は、表 10-1に示すような人員経過であった。

表 10-1 人員の経過

	所長	開発課担当						用地課担当						備考
		次長	課長	副主任	係長	主査	主任技師	技師	課長	副主任	係長	主査	主任主事	
S55	1		1		1			2						
S56														
S57							2	↓						
S58							↓	1						
S59							3	↓						
S60														
S61					1		↓							
S62							2	1						
S63				1			↓	1						
H元				↓					1		1			1
H2					1			↓		1				2
H3														↓
H4				1			1	1				1	1	
H5							↓	2						
H6		1						3						1
H7							↓	1			↓	1		↓
H8							2	2						
H9					2		↓				1			
H10	↓	↓	↓	↓	↓		3	↓	↓	↓	↓	↓	↓	

つぎに、在籍職員一覧表は、表 10-2および表 10-3に、香川県土木部関係者一覧表は、表 10-4に示す。

表 10-2 (2/1) 在籍技術担当職員一覧表

職 氏 名	年 度																在籍期間	計	備考		
	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H1	H2	H3	H4	H5	H6	H7	H8	H9		H10	年月～年月
所 長	4	9																		S55.4～S56.9	1 6
"		10	3																	S56.10～S58.3	1 6
"				4	3															S58.4～S60.3	2 0
"						4	3													S60.4～S62.3	2 0
"							4	3												S62.4～H1.3	2 0
"								4	3											H1.4～H2.3	1 0
"									4	3						4	3			H2.4～H4.3 H7.4～H9.3	4 0
"													4	3						H4.4～H6.3	2 0
"															4	3				H6.4～H7.3	1 0
"																		4	3	H9.4～H10.3	1 0
"																			4	H10.4～H11.3	1 0
次 長																4	3			H6.4～H9.3	3 0
"																		4	3	H9.4～H11.3	2 0
課 長	1	3																		S55.4～S56.3	1 0
"		4		5																S56.4～S59.5	3 2
"					6			5												S59.6～S63.5	4 0
"									5	5										S63.6～H1.5	1 0
"										6	5									H1.6～H3.5	2 0
"											6									H3.6～H7.5	4 0
"																6	5			H7.6～H9.5	2 0
"																		6	3	H9.6～H11.3	1 10
副主任									5	5										S63.6～H1.5	1 0
"														6	5					H4.6～H6.5	2 0
"																6	5			H6.6～H7.5	1 0
"																		6	3	H8.6～H11.3	2 10
係 長	5	5																		S55.6～S56.5	1 0
"		5	5																	S56.6～S57.5	1 0
"				6			5													S57.6～S61.5	4 0
"								6	5											S61.6～S63.5	2 0
"									6	5										S63.6～H2.5	2 0

第3節 予算・決算

3. 1 年度別予算額

門入ダムの年度別予算額は、表 10-5のとおりである。

表 10-5 年度別事業費予算額

(単位 千円)

年 度	公共事業費	上水道事業費	計	区分	事 業 概 要
昭和55年度	30,000		30,000	実調	地形測量・地質調査・諸調査
56	40,000		40,000	"	地質調査・諸調査
57	48,000		48,000	"	地質調査・水理調査・諸調査
58	50,000		50,000	"	地質調査・水理調査
59	60,000		60,000	"	地質調査・水理調査・測量調査
60	70,000		70,000	"	地質調査・水理調査・諸調査
61	80,000		80,000	"	地質調査・水理調査・諸調査
62	80,000		80,000	"	実施設計・水理調査・地質調査・営繕工事
63	100,000		100,000	"	実施設計・水理調査・地質調査・営繕工事
平成元年	139,350	10,650	150,000	建設	実施設計・水理調査・測量調査・用地買収・営繕工事
2	703,582	96,418	800,000	"	実施設計・諸調査・用地買収・付替道路工事
3	836,100	63,900	900,000	"	実施設計・諸調査・用地買収・付替道路工事
4	975,450	74,550	1,050,000	"	実施設計・諸調査・用地買収・付替道路工事
5	1,207,700	92,300	1,300,000	"	諸調査・用地買収・ダム本体工事・付替道路工事
6	929,000	71,000	1,000,000	"	ダム本体工事・付替道路工事・諸調査
7	1,858,000	142,000	2,000,000	"	ダム本体工事・取水放流設備工事・諸調査
8	2,043,800	156,200	2,200,000	"	ダム本体工事・取水放流設備工事・諸調査
9	1,950,900	149,100	2,100,000	"	ダム本体工事・取水放流設備工事・管理設備・周辺整備・諸調査
10	938,290	71,710	1,010,000	"	ダム本体工事・周辺整備・管理設備・諸調査
計	12,140,172	927,828	13,068,000		
負担比率	92.9 %	7.1 %	100 %		

3. 2 年度別決算額

門入ダムの年度別費目別支出状況一覧は表 10-6に示す。

表 10-6 (1/2) 年度別事業費決算額

(単位; 円)

費目	年度	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元
事業費		30,000,000	40,000,000	48,000,000	50,000,000	60,000,000	70,000,000	80,000,000	80,000,000	100,000,000	150,000,000
工事費		28,000,000	37,540,000	45,100,000	47,000,000	56,000,000	65,500,000	75,000,000	75,140,000	70,500,000	120,468,706
工事費	本工事費										
工事費	本ダム費										
工事費	管理設備費										
工事費	仮設備費										
工事費	工事用動力費										
工事費	測量及び試験費	28,000,000	37,540,000	45,100,000	47,000,000	56,000,000	65,500,000	75,000,000	49,566,000	68,661,000	104,443,030
工事費	用地及び補償費										14,208,706
工事費	用地補償費										14,208,706
工事費	用地内補償工事費										
工事費	機械器具費								25,574,000	863,000	655,620
工事費	管理費							5,000,000	4,660,000	29,500,000	29,531,294
事業費		2,000,000	2,460,000	2,900,000	3,000,000	4,000,000	4,500,000	5,000,000	4,660,000	29,500,000	29,531,294

表 10-6 (2/2) 年度別事業費決算額

(単位; 円)

費目	年度	2	3	4	5	6	7	8	9	10	合計
事業費		800,000,000	900,000,000	1,050,000,000	1,300,000,000	1,000,000,000	2,000,000,000	2,200,000,000	2,100,000,000	1,010,000,000	13,068,000,000
工事費		760,302,722	850,600,916	1,020,400,000	1,275,412,513	970,400,043	1,950,760,305	2,161,032,440	2,050,649,381	972,914,648	12,632,751,674
工事費	本工事費				351,522,470	888,571,000	1,889,751,000	2,071,550,000	1,963,006,750	908,067,894	8,083,469,114
工事費	本ダム費				300,677,550	888,571,000	1,889,751,000	2,071,550,000	1,367,459,600	743,539,400	7,271,548,550
工事費	管理設備費								595,547,150	165,528,494	761,075,644
工事費	仮設備費				50,844,920						50,844,920
工事費	工事用動力費										0
工事費	測量及び試験費	202,882,960	105,622,380	114,371,200	43,451,580	35,452,600	50,325,800	87,057,250	86,345,700	62,381,550	1,364,701,050
工事費	用地及び補償費	555,291,647	743,828,091	903,165,134	879,687,211	45,542,084			366,250	707,274	3,142,786,427
工事費	用地補償費	74,009,397	383,664,331	48,470,634	8,594,531	2,168,984			366,250	707,274	532,190,137
工事費	用地内補償工事費	481,282,250	360,163,760	854,694,500	871,092,680	43,373,100					2,610,606,290
工事費	機械器具費	1,528,115	387,396	2,204,796	144,052	198,309	104,132	1,820,040	172,651	157,930	8,854,771
工事費	管理費	600,000	763,049	638,870	607,200	636,050	609,373	605,150	758,000	600,000	32,930,312
事業費		39,697,278	49,399,094	29,600,000	24,587,467	29,599,957	49,209,695	38,967,560	49,350,619	37,085,352	435,248,306

第4節 契約一覧

4. 1 工事発注一覧

年度別の工事発注状況は、表 10-7に示す。

表 10-7 (1/10) 各年度別工事内容

年度区分	工事名	業者名	工期	概	要
昭和58年度	鉄鋼杭掘削工事	御安藤組	58. 8. 3~58. 12. 30	鉄鋼杭掘削 N=3杭 L=140.0m	
昭和59年度	鉄鋼杭掘削工事	御安藤組	59. 7. 31~59. 10. 13	鉄鋼杭掘削 N=1杭 L=20m 底設杭杭幅 V=12m ² (L=12m)	
昭和60年度	鉄鋼杭掘削工事	御安藤組	60. 9. 28~60. 12. 11	鉄鋼杭掘削 N=2本 L=30m	
昭和62年度	建設事務所移築工事	御西園寺 7 社	63. 2. 3~63. 3. 26	建設事務所 平屋 245.70m ² 倉庫 平屋 59.45m ² 車庫 平屋 55.00m ² の移設1式	
	建設事務所敷地工事	御木村組	63. 2. 13~63. 3. 15	土工 424m ² 7x2x L=172m	
	建設事務所舗装工事	御西建設	63. 3. 2~63. 3. 28	舗装工 L=124m ²	
	建設事務所電気設備工事	御山本電工	63. 2. 17~63. 3. 26	電気設備 1式	
	建設事務所移築電気設備工事	御西建設工業所	63. 2. 17~63. 3. 26	給排水・衛生・空調設備 1式	
昭和63年度	鉄鋼杭掘削工事	御安藤組	63. 10. 1~63. 12. 20	鉄鋼杭掘削 L=50.0m(1杭)	
	建設事務所敷地工事	御木村組	63. 8. 13~63. 9. 1	建設事務所敷地工事 1式	
平成元年度	建設事務所修繕工事	御西建設	1. 12. 6~1. 12. 12	車庫修繕 1式 倉庫修繕 1式	
平成2年度	付替泉道工事第1工区(橋梁架替合併)	御高木流業	2. 11. 23~3. 6. 10	橋梁下部工 1式	
	付替泉道工事第2工区(橋梁架替合併)	御高木流業	2. 11. 23~3. 6. 10	橋梁上部工 L=13.8m W=8.2m	
	付替泉道工事第3工区(道路局部改修合併)	御安藤組	2. 11. 23~3. 6. 10	L=274.0m 路面工、擁壁工、排水工、路盤工、防護柵工	
	付替泉道工事第4工区(道路局部改修合併)	御菊池組	2. 11. 30~3. 6. 10	L= 39.5m 逆T型 (H=3.0m~13.0m)	
	付替泉道工事第5工区	御安藤組	3. 7. 25~3. 12. 4	L=280.0m もたれ擁壁、7' 0x7' 積、排水工、下路路盤工	
	付替泉道法面保固工事(第1工区)	青葉工業(株)	3. 11. 14~4. 3. 10	L=225.4m 厚層基材吹付、植生マット	
	付替泉道法面保固工事(第2工区)	御西コンクリート	3. 11. 14~4. 3. 10	L=205.0m 厚層基材吹付、植生マット	

表 10-7 (2/10) 各年度別工事内容

年度区分	工事名	業者名	工期	概	要
平成2年度	付替泉道工事第6工区	御高木組	3. 3. 2~3. 8. 31	L=120.0m 法面工、ブロック積、排水工	
	付替泉道工事第7工区	御西建設	3. 3. 2~3. 9. 10	L= 80.0m 法面工、排水工	
	付替泉道工事第8工区	御大政建設	3. 3. 2~3. 12. 24	L= 73.0m 法面工、ブロック積、排水工	
	付替泉道工事第9工区	御高木流業	3. 9. 26~4. 2. 2	L= 10.0m 橋梁下部工、舗装工、取合工、排水工	
	付替泉道工事第10工区	御山本建設	3. 9. 26~4. 2. 2	橋梁上部工 7' 0x7' 0x7' 厚床版積、L=10.0m W=8.0m	
	付替泉道工事第11工区	御木村組	3. 7. 25~3. 12. 4	L=110.0m 路盤工、法止コ、U型側溝、L型側溝、下路路盤工	
	付替泉道工事(第1工区)	御菊池組	3. 7. 25~4. 1. 9	L=277.6m 筋工、もたれ擁壁、7' 0x7' 積、U型側溝、管渠工	
	付替泉道工事(第2工区)	御西建設	3. 11. 14~4. 3. 25	L=104.0m 逆T型擁壁 L=36.0m	
平成3年度	付替泉道工事(第1工区)	御西建設	3. 11. 14~4. 3. 25	L=104.0m 逆T型擁壁 L=36.0m	
	付替泉道工事(第2工区)	御安藤組	4. 2. 27~4. 8. 20	L= 29.0m 逆T型擁壁 L=24.0m 重力式擁壁 L=5.0m	
	付替泉道工事(第3工区)	御大政建設	4. 2. 27~4. 9. 30	L= 51.7m 逆T型擁壁 L=51.7m	
	付替泉道工事(第4工区)	御木村組	4. 2. 27~4. 8. 20	L= 22.7m 逆T型擁壁 L=22.7m	
	付替泉道工事(第5工区)	御高木流業	4. 2. 27~4. 9. 20	L=111.0m U型擁壁 L=64.8m	
	付替泉道工事(第6工区)	御高木組	4. 2. 27~4. 10. 15	L= 82.2m 逆T型擁壁 L=79.0m 重力式擁壁 L=3.2m	
	付替泉道工事(第7工区)	御菊池組	4. 2. 27~4. 10. 30	L= 91.1m 逆T型擁壁 L=77.0m 重力式擁壁 L=14.1m	
	付替泉道工事(第8工区)	御西建設	4. 2. 27~4. 9. 10	L= 57.9m 逆T型擁壁 L=43.0m 重力式擁壁 L=14.9m	
	付替泉道工事(第9工区)	御西建設	4. 2. 27~4. 9. 20	L= 57.5m 逆T型擁壁 L=57.5m	
平成4年度	原石山橋樑撤去工事	御高木組	4. 5. 21~4. 9. 5	鉄鋼杭 1.0方所 L=40.0m	
	原石山橋樑撤去工事	御高木組	4. 8. 1~4. 9. 20	骨材試験材料採取 V=43.9	
	付替泉道第7工区	御山本建設	4. 8. 13~5. 2. 9	施工延長 L=383.9m 土工 1式 逆T L=19.0m 重力式 L=5.0m もたれ L=10.0m 7' 0x7' A=94.7m ² 排水工 1式	

表 10-7 (3/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	栗 着 名	工 期	概 算	要 要
平成 4 年度	付替町道第 8 工区	側溝掘削	4. 8. 13 ~ 5. 3. 25	土工延長 L=232.0m 土工 1式 逆丁 1式 L=56.7m 重力式 L=19.1m 排水工 1式	
	付替町道門入第14工区	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 6. 3. 26	土工延長 L=177.6m 土工 掘削 V=26,400 埋設工 L=23.3m 排水工 1式	
	付替町道門入第15工区	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 5. 9. 13	土工延長 L=480.0m 土工 1式 7"砂管 A=1,890m ² 排水工 1式	
	付替町道門入第16工区 泉道田面沿田西線特 1 合併	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 5. 3. 17	土工延長 L=150.0m 土工 1式 逆丁 1式 L=55.0m 重力式埋設 L=17.1m 排水工 1式	
	付替町道門入第17工区	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 5. 7. 29	土工延長 L=460.0m 土工 1式 逆丁 1式 L=8.0m 重力式埋設 L=7.9m 排水工 1式	
	付替町道門入第18工区 ~ 2 特 1 合併	側溝掘削	4. 7. 1 ~ 4. 9. 20	土工延長 L=6.4m 重力式埋設 L=6.4m 排水工 1式	
	付替町道第 3 工区	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 5. 2. 19	土工延長 L=145.0m 土工 掘削 V=1,010 盛土 V=4,220 7"砂管 A=43m ² 排水工 1式	
	付替町道第 8 工区 泉道田面沿田西線特 1 合併	側溝掘削	4. 9. 22 ~ 5. 2. 19	土工延長 L=156.3m 土工 掘削 V=21,720 7"砂管 A=31m ² 排水工 1式	
	付替町道第 6 工区	側溝掘削	4. 10. 1 ~ 5. 5. 31	橋梁工 基礎工 深礎杭(A1,A2,P1,P2) 1式 下脚工 橋台(A1,A2) 2基 橋脚(P1,P2) 2基	
	付替町道第 9 工区 地方特定道路整備事業	側溝掘削	4. 10. 29 ~ 6. 1. 31	土工延長 L=299.8m 掘削 V=18,160 盛土 V=1,280 埋設 L=92.2m 排水工 1式 仮設工 1式	
	付替町道第 4 工区	側溝掘削	4. 12. 25 ~ 5. 6. 30	土工延長 L=57.0m 土工 1式 埋設工 1式 余水吐 1式 埋設工 1式 水路 1式	
	付替町道第 5 工区	側溝掘削	4. 12. 25 ~ 5. 9. 10	土工延長 L=329.5m 土工 1式 7"砂管 A=985m ² 排水工 1式	
	付替町道第 4 工区	側溝掘削	4. 12. 25 ~ 5. 12. 15	土工延長 L=147.1m 厚層基礎材吹付 1,911m ² コンクリート 2,322m ² 排水工 A=395m ² 永久7"砂管 14本	

表 10-7 (4/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	栗 着 名	工 期	概 算	要 要
平成 4 年度	付替町道第 5 工区	大和工業高松営業所	4. 12. 25 ~ 5. 7. 20	土工延長 L=225.3m コンクリート法枠・厚層基礎材 A=1,614m ² 厚層基礎材吹付 A=3,366m ² 排水工 A=164m ²	
	付替町道第 1 工区	大和工業高松営業所	4. 12. 25 ~ 5. 3. 25	土工延長 L=265.3m 厚層基礎材吹付 (t=3cm) A=2,484m ² # (t=5cm) A= 194m ²	
	付替町道第 3 工区道路特 1 合併	日本橋生駒高松営業所	4. 12. 25 ~ 5. 3. 25	土工延長 L=231.9m 厚層基礎材吹付 (t=3cm) A=2,820m ²	
	付替町道第 6 工区道路特 1 合併	開港コンクリート	5. 1. 28 ~ 6. 3. 25	土工延長 L=90.0m 厚層基礎材吹付 A=1,010m ² コンクリート A=236m ² コンクリート吹付 A=2,144m ² 永久7"砂管 86本	
	付替町道第 9 工区	泉興業所	5. 1. 28 ~ 5. 8. 31	土工延長 橋梁上部工 L=59.7m 上部工(単純合成型鋼桁) W=5.20m 架設工 1式	
	付替町道第10工区	側溝掘削	5. 1. 28 ~ 6. 1. 29	土工延長 L=239.2m 土工 1式 7"砂管 A=81m ² 排水工 1式	
	付替町道第11工区 (O国債) 泉道田面沿田西線道路特 1	側溝掘削	5. 5. 25 ~ 5. 6. 30	土工延長 L=655.0m 掘削 V=534 補設工 表層工 A=5,520m ² 7"砂管 L=177.0m	
平成 5 年度	ダム築造工事 5 年度協定	大和建設高松営業所	5. 10. 14 ~ 6. 9. 30	炭体工事 仮排水トンネル 1式 7"砂管 L=177.0m 試掘試験掘削 1本 掘工事 土留場工 1式 天端取付道路 1式 掘工事 排水処理工等 1式	
	付替町道第11工区 (O国債) 泉道田面沿田西線道路特 1	側溝掘削	5. 2. 25 ~ 5. 6. 30	土工延長 L=643.2m 土工 V=534	
	付替町道第12工区	側溝掘削	5. 9. 30 ~ 6. 10. 31	土工延長 L=107.3m 掘削 V=1,575 逆丁 L=27.0m 重力式 L=5.6m モタル式 L=59.7m 7"砂管 A=19m ² U型 1式	
	付替町道第13工区	側溝掘削	5. 9. 30 ~ 6. 2. 28	土工延長 L=172.0m 掘削 V=146 盛土 V=6,990 掘り吹付 A=722m ² 掘7"砂管 A=807m ² U型側溝 L=287m	

表 10-7 (5/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	業 者 名	工 期	概 算	要 要
平成 5 年度	付替県道法面第10工区道路特殊改良第1種工事合併	青葉工業(株)	5. 9. 30～ 6. 2. 21	施工延長 L=160.5m 厚層基材吹付 A=2,495m ² con法枠 A=1,071m ² コンクリート吹付 A=275m ²	
	付替町道第11工区	柳沼池組	5. 9. 30～ 6. 6. 20	施工延長 L=168.1m 土工 1式 法面整形 A=2,690m ² 路側擁壁 L=27.5m 排水工 1式	
	付替県道舗装工第3工区 道路特殊改良1種工事合併	関西建設(株)	5. 9. 30～ 6. 4. 30	施工延長 L=1,289m 下層路工 1式 上層路工 1式 表層工 1式 区画線 1式 g'-t' b'-c' 1式	
	付替町道法面第2工区	ライ工業(株)四国支店	5. 9. 30～ 6. 11. 28	施工延長 L=564.7m 厚層基材 t=3, 5, 7 A=4,794m ² モルタル併用厚層基材 t=7cm A=772m ² 植生材敷き付吹付 A=385m ² con法枠 A=557m ²	
	付替町道法面第3工区	自持建設(株)四国支店	5. 9. 30～ 6. 5. 31	施工延長 L=385.0m 厚層基材 t=3, 5, 7 A=2,409m ² 7ヶ所 N=15本 コンクリート吹付 A=375m ² 法枠工 A=1,667m ²	
	付替県道法面第7工区 地方特定道路整備事業合併	日本基礎技術(株) 高松営業所	5. 9. 30～ 6. 5. 31	施工延長 L=199.7m 厚層基材 t=5, 7cm モルタル併用厚層基材 t=7cm コンクリート法枠(1200×1200), (2000×2000)	
	付替県道門入第17工区-2	柳沼池組	5. 7. 1～ 5. 9. 10	施工延長 L=73.0m 1号管渠 L=9.5m 吐出口 1箇所 水叩工 2箇所 排水口 1式	
	付替県道門入第18工区	柳安藤組	5. 9. 30～ 6. 1. 31	施工延長 L=243.1m 土工 1式 排水工 1式 取合道路 L=163.0m 路側コンクリート L=82.9m 縦工 1式	
	付替県道門入第19工区	柳富田組	5. 11. 25～ 6. 2. 28	施工延長 L=22.0m 掘削 V=60 埋戻 V=47 土留壁 L=22m 植子吹付 A=120m ²	
	付替県道道神第10工区道路改修合併	柳山木建設	5. 12. 28～ 6. 10. 31	施工延長 L=80.0m 掘削 V=22, 186 法面整形 A=2,809 排水工 1式	
	付替町道法面第4工区	化・デ・ン工業(株)	6. 1. 20～ 6. 11. 30	施工延長 L=272.2m 厚層基材 A=2,782m ² 法枠工 A=3,330m ² コンクリート吹付 A=591m ²	

表 10-7 (6/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	業 者 名	工 期	概 算	要 要
平成 5 年度	付替町道法面第4工区	化・デ・ン工業(株)	6. 1. 20～ 6. 11. 30	施工延長 L=272.2m 厚層基材 A=2,782m ² 法枠工 A=3,330m ² コンクリート吹付 A=591m ²	
	付替県道道神第9工区その2 地方特定道路整備事業	笠井建設(株)	5. 12. 24～ 6. 2. 10	施工延長 L=17.0m 盛土 V=213 路側擁壁 L=17.0m	
	付替県道法面第8工区 道路特1, 道路改修合併	大和工業(株)高松営業所	6. 2. 24～ 6. 11. 22	施工延長 L=79.3m 厚層基材 A=954m ² 法枠工 A=1,287m ² コンクリート吹付 A=223m ²	
	付替町道門入第20工区	柳大政建設	6. 2. 24～ 6. 12. 9	施工延長 L=148.3m 掘削 V=14,390 石積 A=331m ² U型側溝 L=247.3m 縦工 1式	
	付替県道道神第11工区 地方特定道路整備事業合併	柳高木産業	6. 3. 3～ 6. 10. 30	施工延長 L=268.0m 排水工 L=131.3m 取合道 1式 防壁工 1式	
	付替県道法面第4工区	化・デ・ン工業(株)	4. 12. 25～ 5. 12. 15	施工延長 L=147.1m 厚層基材 A=3,012m ² 法枠工 A=2,206m ² コンクリート吹付 A=395m ² 7ヶ所 N=14本	
	付替町道第10工区	柳山西組	5. 1. 28～ 6. 1. 29	施工延長 L=239.2m 掘削 V=21,660 盛土 V=36 仮設工事 1式 7ヶ所縦 A=81m ² U型側溝 L=160m	
	付替県道法面第9工区	開発コンクリート(株)	6. 3. 29～ 6. 10. 30	施工延長 L=145.5m コンクリート吹付 A=2,872m ² 法枠工 A=1,139m ² 厚層基材 A=738m ² 7ヶ所 N=202本 階段工 1式	
	工事用道路工事	柳安藤組	6. 3. 3～ 6. 4. 30	施工延長 L=297.0m 掘削 V=523 盛土 V=4,025 排水工 1式 路側コンクリート L=35.5m コンクリート吹付 A=111m ²	
	付替町道工事(舗装工)	柳光建設(株)	6. 3. 8～ 6. 11. 30	施工延長 L=2,100m 土工 1式 舗装工 A=8,370m ² 7ヶ所-7 L=148m g'-t' b'-c' L=1330m	
平成 6 年度	ダム築造工事6年度協定	大豊建設(株)高松営業所	6. 9. 30～ 7. 8. 31	堤体工事 仮排水トンネル 1式 基礎掘削 1式 g'-t' b'-c' 1式 1式 水床コンクリート 1式 基礎掘削 1式 排水工 1式 縦工事 抑え盛土 1式 f' A用原設備 涵水処理工事 1式	

表 10-7 (7/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	業 者 名	工 期	概 算
平成 6 年度	付替県道加賀工第 4 工区道路改修合併	関西建設㈱	6. 10. 1～7. 1. 5	施工延長 1 式 下道路幅 3,470m ² 上道路幅 4,880m ² 表層 4,880m ² ア-ト-レ-ハ 283m ² ヲ-レ-ハ 1,850m ² 減速マ-ク 1 式
	付替町道法面第 4 工区	代ア-ン工業㈱	6. 1. 20～6. 11. 30	施工延長 L=272.2m 厚層基材 2,782m ² 基材伴用厚層基材 1,978m ² 3291-1 法付 A=1,352m ² ヲ-レ-ハ吹付 A=591m ²
	付替県道加賀工第 12 工区道路改修合併	高木産業㈱	6. 10. 1～7. 1. 5	施工延長 L=89.2m 石積工 L=75.6m 1号防振構工 L=12.3m 2号防振構工 L=16.0m 3号防振構工 L=16.0m
	付替県道加賀工第 13 工区道路改修合併	山水建設㈱	6. 10. 15～6. 11. 24	施工延長 L=96.0m 法面整形 A=2,192m ² ア-ト-レ-ハ A=22m ²
	水位雨量観測所移設工事	朝拓和	6. 4. 22～6. 5. 30	水位雨量観測所移設工事 1 式
平成 7 年度	ダム築造工事 7 年度協定	大豊建設㈱高松営業所	7. 8. 6～8. 5. 30	堤体工事 農水振流工 1 式 基礎掘削 1 式 ア-ト-レ-ハ 3 式 測定装置 1 式 陸査出入口 1 式 雑工事 付替水路工 1 式 ア-ト-レ-ハ用取設備 取水処理工等 1 式
	取水放流設備工事 7 年度協定	川崎重工業㈱四国支社	7. 5. 31～8. 3. 31	ア-ト-レ-ハφ600用 1 基 取水管φ450-600 1 式 取水管φ100-600 1 式 放流管φ250,900 1 式 給気装置 充水装置 付属設備 各 1 式
	ダム築造工事 8 年度協定	大豊建設㈱高松営業所	8. 4. 27～9. 9. 30	堤体工事 仕上掘削 1 式 ア-ト-レ-ハ 3 式 本体コナリ-ト 1 式 閉塞工 1 式 諸工事 付属工事 1 式 ア-ト-レ-ハ用取設備 1 式
平成 8 年度	取水放流設備工事 8 年度協定	川崎重工業㈱四国支社	8. 4. 1～9. 3. 31	ア-ト-レ-ハφ450,600用 6 基 取水管 伸縮継手 3 基 主ア-ト-レ-ハφ100, 150,350,600 各 1 基 予備φ100,150,350,600 各 1 基 放流管 φ250,900 給気装置 充水装置 付属設備 電気設備 各 1 式
	取水放流設備工事 (全体)	川崎重工業㈱四国支社	7. 5. 31～9. 9. 30	ア-ト-レ-ハφ450,600用 6 基 取水管φ450-600 1 式 取水管φ100-600 1 式 放流管φ100-600 1 式 主ア-ト-レ-ハφ100×2 350×1 600×1 4 基 予備φ100-600 1 式
	取水放流設備工事 (第 1 工区)	朝安藤組	9. 12. 5～10. 7. 31	1 式・施設工 1 式・種子吹付 1 式

表 10-7 (8/10) 各年度別工事内容

年度 区分	工 事 名	業 者 名	工 期	概 算
平成 9 年度	取水放流設備工事 (9 年度協定)	川崎重工業㈱四国支社	9. 4. 1～9. 9. 30	(現地掘え付け)ア-ト-レ-ハφ450 φ600 6 基 取水管 1 式 主ア-ト- レ-ハφ100×2 φ350×1 φ600×1 放流管 φ250 φ900 給気設備 充水設備
	ダム築造工事 9 年度協定	大豊建設㈱高松営業所	9. 6. 26～10. 12. 25	堤体工 ア-ト-レ-ハ 3 式 付属工 (測定装置・排水工・天端工・ 陸査観付帯工・上屋工・取水設備基礎) 雑工 (抑え盛土・土 捨て工・堤体取付掘削・雑工・法面保護工・雑務工下流盛土工 ・下流河道取付工・既設堤体撤去工) 環境整備工 ア-ト-レ-ハ用取設備 係船・網場設備 周辺整備工
	農土処分場面形復旧工事	光洋建設㈱	10. 1. 8～10. 3. 25	植栽工 1号箇所(157m ²) 157本 2号箇所(2390m ²) 477本)
	貯水池法面工事	日特建設㈱四国支店	10. 2. 11～10. 6. 30	ア-ト-レ-ハ吹付(L=10cm) A=2,732m ²
	案内標識等設置工事	朝康段工業	10. 2. 18～10. 9. 30	ア-ト-レ-ハ L=436m・道路反射鏡 2 基・案内標識 3 基 説明板、案内板 5 基・ア-ト-レ-ハ(構造物) L=24m
	常用洪水吐ゲート設備工事	川崎重工業㈱四国支社	9. 11. 13～10. 6. 30	制限水位放流ゲート 1 基 試験放水用ゲート 1 基 ア-ト-レ-ハ 1 基 付属設備 1 式 電気設備 1 式
	電気設備工事	朝地戸電水セナ-	9. 10. 28～10. 3. 25	受配電設備 1 式 予備電設備 1 式
	管理設備工事 (全体)	朝東芝四国支社	9. 9. 30～11. 3. 10	ア-ト-レ-ハ情報処理装置 1 式、ア-ト-レ-ハ・放流警報設備 1 式、通信設備 1 式 (機器費) ア-ト-レ-ハ情報処理装置 1 式、ア-ト-レ-ハ・放流警報設備 1 式 通信設備 1 式
	管理設備工事平成 9 年度協定	朝東芝四国支社	9. 9. 30～10. 12. 25	
	管理事務所建築工事	朝人屋工務店	9. 9. 5～9. 3. 20	鉄筋コンクリート2階建て 建築面積232.07m ² ・延面積365.75m ²
	管理事務所その他建築電気設備工事	朝広瀬電工	9. 10. 7～9. 3. 20	管理事務所棟・電気室棟に伴う電気設備・ア-ト-レ-ハ設備・幹線設備 電気配管設備・インバータ設備・テレビ 共通設備等
	管理事務所その他建築機械設備工事	元山電気㈱	9. 10. 8～9. 3. 20	管理事務所棟・電気室棟に伴う衛生器具設備・給水設備・排水 設備・給湯設備・ア-ト-レ-ハ設備・し尿浄化設備・空気調和設備・換気 設備
	電気室棟建築工事	大川建設㈱	9. 10. 23～10. 2. 27	鉄筋コンクリート2階建て 建築面積117.00m ² ・延面積117.00m ²
	田面省田西線道路環境整備事業等田の広場増築工事	朝高木産業	9. 5. 15～9. 12. 30	土工 1 式 雑費工192.5m ² 排水工67m ² 舗装工434m ²
	環境整備工事 (第 1 工区)	朝安藤組	9. 12. 5～10. 7. 31	施工延長173.0m・土工1式・雑費工1式・植生工1式・防振構工 1式・施設工1式・種子吹付1式

表 10-7 (9/10) 各年度別工事内容

年度	区分	工事	工事名	業者	工期	概算	要項
平成9年度	環境整備工事	環境整備工事(第2工区)	柳瀬池組		9.12.16~10.7.31	施工延長118.2m・土工式・堤岸土工式・防護欄土工式・施設土工式・施工延長50m・土工式・堤岸土工式・強371式	
		環境整備工事(第3工区)	柳水村組		10.1.6~10.7.31	施工延長121.8m 河川土工式 堤岸土工式 (多自然型堤岸工) A=609m ² 床止め土工式	
		環境整備工事(第4工区)	柳瀬川組		10.1.17~10.7.31	施工延長=370.4m・土工式・舗装工A=492m ² ・緑石工L=186m ² 施工延長=336m・防護欄L=66m・水路工式・舗装工A=1,111m ² ・水路工式・休養所1分所・植栽土工式	
		環境整備工事(第5工区)	柳松木渡農		10.2.11~10.7.31	施工延長L=115m・土工式・舗装工A=595m ² ・案内板・防護欄L=88.5m・植栽工1式(高木86 低木244) 強芝A=2,580m ² ・休養所1カ所・石垣舗装A=155m ² ・電気設備1式	
		環境整備工事(第6工区)	柳大政建設		10.2.20~10.7.31	施工延長=103m・土工式・堤岸工A=274m ² ・陸段工・自然色舗装A=446m ² ・案内板1基・防護欄L=70m・休養所1分所・野外草3基	
		環境整備工事(第7工区)	柳松尾総合土木		10.3.3~10.9.30	土工式・舗装工(自然色 A=64m ² , As A=292m ²) 防護欄L=371m・水路工式・植栽1式・休養所3カ所・野外草3基・案内板1基	
		残土地分場原形復旧工事 奥田田面花田西線道路局施設修工事合冊工事	田中迎園		10.5.9~11.3.10	植樹土工式1号樹所 236本(根径=1.0m) 2号樹所 865本(幹径287本・777m ² ・151本・分枝142本・L/千 285本 H=1.0m)	
		残土地分場原形復旧工事(第3工区)	柳光緑地		10.9.1~11.3.25	植栽工 2,570本 A=12,500m ²	
		残土地分場原形復旧工事(第3工区)	柳引田グループ		10.9.9~11.3.25	植栽工 2,970本 A=14,250m ²	
		ダム築造工事10年度協定	大豊建設柳高松営業所		10.12.26~11.3.19	開竣工式(堤内仮排水路・農業用水管)付備設置(突端工)1式 雑工事(土留場工・境界地管理設備(水質浄化設備上置)1式 周辺整備(左右岸整備・ダム下流整備)1式	
		長河修第22号河川修繕費(含冊) 門入ダム大井川歸水位局造成工事	柳松尾総合土木		10.9.1~10.12.25	水位局造成工事 河川土工式1式・堤岸工A=21.3m ² ・水路工式・付備物1式・柳瀬川1式 築堤堤岸L=30m, A=134m ²	
		管理設備(その2)工事	柳東之四国支社		10.10.1~11.3.10	迎撃監視設備1式(長尾土木事務所)	
		管理設備工事10年度協定	柳東之四国支社		10.12.26~11.3.10	ダム監視処理設備1式 付備物・放流監視設備1式 通信設備1式	
		貯水池水質改良設備工事	柳電業社柳林製作所 高松営業所		11.1.7~11.7.31	電気設備1式・電気設備1式	
		柳瀬川下流水位局整備工事	日本建設柳四国支店		11.1.7~11.3.25	下流水位監視整備 1式	

表 10-7 (10/10) 各年度別工事内密

年度	区分	工事	事業名	業者	名	工期	概	要
平成10年度	線上処分場原形復旧工事(第4工区)			和光建設㈱		11. 1. 6~11. 3. 15	As舗装 A=1140㎡、砂利鋪設A=333㎡、7×8-7'11=112a、区画線1式	
	地方特定河川等環境整備事業(合冊)			御安藤組		10. 11. 19~11. 3. 15	As舗装 A=1520㎡、V字舗装 A=7㎡、階段1式、防護柵1式、案内区2基、植栽1式、四阿1式、野外車2基、水紋島1箇所、電気設備1式、排水設備1式	
	河川改修(特定環境)(合冊)			御高木建設		10. 12. 3~11. 3. 15	As舗装 A=498㎡、防護柵1式、土工1式、植栽1式、給水設備1式、公園照明1式、A'×A'、I-A'×2基、A'-I-A'×1=298m 法面工1式	
	環境整備工事(第2工区)			柏岩崎造園		10. 12. 3~11. 3. 15	高木植栽1式、中低木植栽1式、移植工1式	
	地方特定河川等環境整備事業(合冊)			村上造園		11. 1. 12~11. 3. 15	植栽工1式(高木植栽、中低木植栽) 強芝工A=116㎡、崗名坂1式	
	環境整備工事(第3工区)			御富田組		11. 2. 18~11. 3. 25	河川土工1式、付属物設置工1式	
	環境整備工事(第5工区)							
	下流水位調整成工事							

第5節 行 事

5. 1 行事・式典一覧

(1) ダム本体安全祈願祭

- 1) 工事名 津田川総合開発事業 門入ダム築造工事
- 2) 日 時 平成6年1月25日(火) 11時～
- 3) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
門入ダム築造工事敷地内
- 4) 斎 主 石田神社
- 5) 施 主 香川県
- 6) 施 工 大豊建設㈱
- 7) 出席者 施 主 22名
施工者 5名

(2) 仮排水トンネル貫通式

- 1) 工事名 津田川総合開発事業 門入ダム築造工事
- 2) 日 時 平成6年9月2日(金)
- 3) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
仮排水路トンネル呑口
- 4) 施 主 香川県
- 5) 施 工 大豊建設㈱
- 6) 出席者 施 主 3名
施工者 20名

(3) ダム本体コンクリート初打設式

- 1) 工事名 津田川総合開発事業 門入ダム築造工事
- 2) 日 時 平成7年6月6日(火)
- 3) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
堤体 9BL 下流側
- 4) 斎 主 石田神社
- 5) 施 主 香川県
- 6) 施 工 大豊建設㈱

- 7) 出席者 施 主 14名
来 賓 28名
施工者 6名

8) 式次第

- 11:00 神事
- 11:40 初打設式
- 12:30 祝賀会

(4) 定 礎 式

定礎式は、平成7年10月26日(木)参加者71名の見守る中、午前10時から知事以下関係者の手で、礎石鎮定などの儀が行われた。

- 1) 日 時 平成7年10月26日(木) 午前10時より
- 2) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
堤体 8BL 9BL

3) 式次第

- 10:00 開式
- 10:01 式辞 香川県知事
- 10:06 工事経過報告 長尾土木事務所長
- 10:11 来賓祝辞 建設大臣代理
建設省河川局開発課
水源地対策室建設専門官
香川県議会副議長
寒川町長
- 10:24 来賓紹介
- 10:26 祝電披露
- 10:28 定礎
礎石運搬
- 10:34 鎮定の儀 建設大臣代理
建設省河川局開発課
水源地対策室建設専門官
香川県議会副議長
香川県知事

門入ダム工事誌

10:38 齋饗の儀

10:40 齋饗の儀

10:44 礎石埋納

10:49 バケツ開放

くす玉開披

10:55 万歳三唱

10:57 閉式

(5) 堤体コンクリート 5 万 m³ 打設達成式

- 1) 工事名 津田川総合開発事業 門入ダム築造工事
- 2) 日 時 平成 8 年 3 月 18 日(月)
- 3) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
堤体 7BL
EL=81.00~
- 4) 施 主 香川県
- 5) 施 工 大豊建設㈱
- 6) 出席者 施 主 10名
施工者 15名

(6) 試験湛水開始式

- 1) 工事名 津田川総合開発事業 門入ダム築造工事
- 2) 日 時 平成10年10月30日(金)
- 3) 場 所 香川県大川郡寒川町門入地先
門入ダム右岸管理事務所横広場
- 4) 齋 主 石田神社 植村宮司殿
- 5) 施 主 香川県
- 6) 施 工 大豊建設㈱
- 7) 出席者 施 主 14名
来 賓 6名
施工者 18名

(7) 門入ダム竣功式

竣功式は、平成11年 3 月 24 日(水)参加者191余名の見守る中、午前10時30分から知事以下関係者の手で執り行われた。

- 1) 日 時 平成11年 3 月 24 日(水) 午前10時30分より
- 2) 場 所 大川郡寒川町石田東(門入ダム右岸管理事務所横広場)
- 3) 主 催 香川県
- 4) 式次第

10:30 開式

10:31 式辞 香川県知事

10:36 工事概要報告 長尾土木事務所長

10:41 来賓祝辞 建設大臣代理 開発課課長補佐

10:46 テーブカット 建設大臣代理 開発課課長補佐

香川県知事

香川県議会議長代理 土木委員長

門入ダム促進期成同盟会会長

大豊建設(株)代表取締役会長

くす玉開披

香川県議会水資源対策特別委員長

香川県議会土木副委員長

香川県議会土木委員

香川県議会土木委員

10:50 記念放水

地元県議会議員
 地元県議会議員
 地元県議会議員
 地元県議会議員
 建設省四国地方建設局長代理 河川情報管理官

11:05 稚魚放流

香川県土木部長
 門入池水利組合長
 門入自治会長
 極楽寺自治会長
 養神自治会長
 門入ダム対策委員長

11:10 記念植樹

建設大臣代理 開発課課長補佐
 香川県知事
 香川県議会議長代理 土木委員長
 香川県議会水資源対策特別委員長
 寒川町長
 寒川町議会議長
 津田町長
 津田町議会議長
 大川町長
 大川町議会副議長
 志度町長
 志度町議会議長

11:20 万歳三唱

門入ダム建設促進期成会会長

11:21 閉式

地域の発展に大きな効果

香川県知事

真鍋 武紀

本日ここに、門入ダムの竣功式を挙行するに当たりまして、一言御挨拶を申し上げます。
 建設省河川局開発課の古賀様並びに国会、県議会の諸先生方をはじめ御来賓の皆様方におかれましては、御多忙のところ、御臨席を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、本日、竣功の運びとなりました、この門入ダムが建設された津田川水系は、本県特有の急勾配の河川でありまして、これまでも度々、洪水による被害が発生しております。

特に、昭和51年、昭和62年の台風に伴う豪雨による大被害は、いまだ記憶に新しいところであり、こうしたことからこの河川の抜本的な治水対策は重要な課題でありました。

一方、津田川流域は、瀬戸内特有の穏やかな気候や豊かな自然に恵まれて暮らしやすい環境にありますが、降水量が少なく流水状況が不安定でありますことから、地域の方々は、昔から水の確保に苦勞されてまいりました。加えて、近年は生活用水の増加などにより、水不足は半ば恒常的となっておりまして、特に平成6年の異常渇水時には、地元寒川町において約3ヵ月にわたる給水制限を余儀なくされ、本ダムの早期完成が強く望まれていたところであります。

こうした背景のもと、国、県、寒川町、大川町、志度町、津田町が一体となって、津田川水系の洪水防止、河川流水の安定と地元寒川町の水道水源の開発を目的として、平成元年度に門入ダムの建設に着手いたしました。地元の方々をはじめ関係の皆様方の御理解と御支援を賜り、工事が順調に進捗いたしまして、本日でめでたく竣功式を迎えましたことは、誠に意義深く、慶びに堪えないところであります。

これも偏に、関係各位の多大の御尽力の賜物と、心から感謝を申し上げます。さらに、本ダムの建設のために、先祖伝来の貴重な土地や資産を御提供いただきました方々の一方ならぬ御理解と御協力に、改めて厚く御礼申し上げる次第であります。

この門入ダムの完成によりまして、河川の洪水防御はもとより、水道用水の安定供給にも寄与し、東讃四町の今後の発展に大きな効果を発揮するものと確信いたします次第であります。また、清涼な水を湛える新たな湖面とダム周辺の公園が、貯水池上流のカメリア温泉やその周辺施設とも一体となり、東讃の新たな名勝として、末永く多くの人々に親しまれるようお願いいたします。

終わりに臨み、本事業の推進に当たり、御指導、御援助を賜りました建設省、諸先生方並びに御協力いただきました地元の方々、また、工事を立派に完成されました関係の皆様に対し、重ねて心から深く感謝申し上げますとともに、東讃地域の限らない御発展をお祈り申し上げまして、式辞といたします。

灌漑機能を活かしての無事故無災害

長尾土木事務所長

津田川総合開発事業門入ダムの竣工に当たり、事業の経過とその概要を報告いたします。

津田川は、その源を大川町と白鳥町との町境標高 560m の笠ヶ峰に発し、大川町内を北流して途中、新名川・本村川・土井川を合流しながら流下、さらに瀬川・古川・梅檀川を合流し、寒川町・津田町を貫流して、瀬戸内海に注ぐ延長 15km、流域面積 44km² の 2 級河川であります。

この津田川は、急流のため古くより出水のたびに大きな被害をもたらしてまいりました。このため、昭和38年には津田川本流に大川ダムが築造され、治水安全度の向上が図られましたが、その後も昭和51年や昭和62年の台風被害など、毎年のように河岸の決壊、氾濫を繰り返してきました。また、沿川の津田町・寒川町・大川町は都市化が進み、被害額は増加の傾向にありました。

一方、津田川水系は、津田・寒川・大川・志度各町の農地や生活用水の水源として広く利用されてきましたが、近年は夏場にしばしば深刻な水不足に見舞われており、ことに、地元寒川町では、地域開発が進み生活環境も大きく変化して、上水道の需要が今後急速に伸びることが予測され、新たな水源確保が強く望まれてきたところであります。

この様なことから、津田川支流の梅檀川上流部に、治水・利水を目的とする門入ダム築造計画が立案され、その早急な完成に大きな期待が寄せられてきました。

さて、門入ダムの諸元を申し上げますと、堰堤の高さが 47.3m、長さ 202.5m、堤体積は 109,000m³、総貯水量が 290万tであります。また、洪水調節流量毎秒 40t、水道水の供給が日量 1,500tとなっております。

次に事業の経過でございますが、多くの関係者の皆様方のご尽力によりまして、昭和55年度から、国の補助事業として実施計画調査を開始し、平成元年度から建設に着手しました。

以来、事業用地の買収や補償交渉につきましても、水没人家の地権者の方をはじめ多くの方々の温かいご理解と、地元関係者の並々ならぬご協力のお陰をもちまして、足かけ4年という短期間で買収をほぼ完了することが出来ました。

工事の施工につきましては、平成2年度から総延長 4.3kmに及ぶ、付け替え道路の工事に着手致しました。地質が脆弱な箇所もありまして難工事ではありましたが、平成6年度までの5カ年で付け替え道路を完成することが出来ました。

ダム本体の工事につきましては、平成5年10月から転流工事に着手しました。続いて平成7年6月からは、堤体コンクリートの打設を開始し、同年10月26日に定礎式を執り行いました。その後も工事関係者のご努力により順調に進捗しまして、平成9年5月にはコンクリート打設を完了致しました。

この工事の特徴としましては、ダム軸上流約100mにかんがい用ため池である門入池がありましたが、そのかんがい機能を活かしながらの、工事を行ったことであります。

本体コンクリートの打設完了後も、管理設備や周辺整備など関連の工事を着々と進め、昨年11月には試験湛水を開始致しました。その後も公園整備や水質浄化のための噴水などの整備を進め、最終的な仕上げ工事を行いまして、着工以来10年の歳月と総額130億6,800万円を費やした門入ダムが、本日、ここにめでたく竣功式を迎えることとなりました。

このダムの完成により、地元寒川町の水不足の解消はもとより、津田川下流域の治水に大きく寄与するものと期待しております。

また、当ダムは市街地から近く、幹線道路からもよく見える位置にありますので、ダム本体をライトアップする設備を設けましたし、ダム下流面には石積模様の化粧型枠を施したりして、景観面への配慮をいたしました。ダムサイトからの眺望は素晴らしい、晴れた日には瀬戸内海や小豆島まで見渡すことができます。また、ダム上流にあります町営のカメリア温泉や門入の郷の公園と、ダム周辺の公園が一体的に整備されておりまして、これらが全体として大川郡内の新たな観光名所となり、多くの方々に末長く親しまれますことを願って止みません。

最後になりましたが、本事業を進めるにあたり、貴重な土地や財産をご提供くださいました方々、また、門入池水利組合をはじめ関係の皆様方の絶大なご理解とご協力に対しまして、重ねて厚くお礼申し上げますとともに、長期間にわたり無事故無災害でこの様に立派に工事を完成させられました工事関係者の皆様方のご努力に対し、心より感謝申し上げます。私の工事報告といたします。

謝

礼

門入ダム建設促進期成会会長

本日は、津田川総合開発事業に伴う門入ダム竣功祝賀会にご列席下さいまして誠にありがとうございます。

門入ダム建設促進期成会を代表いたしまして、一言お礼を申し上げます。

申すまでもなく、門入ダムは洪水調整は元より、流水の正常な機能の維持としての効果と併せて、寒川町の水道用水の水源として、門入池を取り込んで建設されたものであります。この湖底に沈む門入池は、日華事変と第二次世界大戦の最中に食糧増産施策の一貫としての昭和19年3月に築造されたのですが、台風などの大雨では何度も危険な状況になり、防災上特別に警戒を要するものでありました。

当ダムの建設は、昭和50年度から始まった予備調査以来23年という永い年月を経て、本日の竣功式を迎えることができました。

この間には建設省はもとより、香川県並びに地元選出の国会、県議会の議員の先生方、貴重な土地を提供していただきました地権者の方々、多大なご理解を賜りました門入池水利組合、工事に際して何かとご迷惑をおかけしました地元自治会、また、無事故で立派な施工をしていただきました大豊建設株式会社とその協力会社等々、関係者各位の熱烈なる御支援、御協力によるものでありこのことに対しまして衷心より厚くお礼申し上げます。

このダムは寒川町のみならず、津田川水系に属する大川町、志度町、津田町におきまして、毎年のごとく繰返された洪水被害と旱魃の被害からようやく開放されるとともに、水道用水も確保されたことで長年の夢が叶い併せて国土の保全と水資源の有効活用など、後世に及ぼす効果は、はかり知れず特に大なるものと確信いたします。

一方、阿讃山脈を背景として緑豊かな環境のなかに築造された門入ダムは、幹線県道からダム本体が一望できる至近距離に位置しておりまして、地域と共生するダムとして環境に優しい周辺対策に十分に配慮をしていただき、ご覧のとおり立派な施設が整備されました。この様な状況から、観光資源としても有効に活用でき県民の憩いの場となるものと思われます。

今後は、この偉大な資源を十分に活用した施策を進め東讃地域の活性化のために、「美しい自然と調和のとれた活気あるまちづくり」をめざしてまいり所存であります。

終わりに、本日は何かとご多忙にも係わりませず門入ダム竣功祝賀会にご臨席を賜りました皆様心から敬意と感謝を申し上げましてお礼の挨拶といたします。

5. 2 ダム見学者

寒川町では、近年生活用水の増加、地場産業の発展により水道用水の需要の急増が予想されており、新たな水源の確保が強く望まれており、門入ダムの完成による大きな期待が寄せられていることから、学生や一般の研修・見学者が訪れた。

第1回門入ダム現場見学会 門入ダム展望台

日 時 平成7年10月8日(日) AM10:00~PM3:00(雨)
参加者 300名
行 事 メモリアルストーン
写生大会 92作品
距離当てクイズ 160投票
ビデオ放映

「くらしと土木を考える県政バス」

日 時 平成7年11月20日(月) PM2:20~PM2:40
参加者 100名

ダム管理研修

日 時 平成8年2月25日 AM11:40~PM0:15
参加者 34名

神前小学校 遠足 (3,4,5年生)

日 時 平成8年4月23日
参加者 66名

第2回門入ダム現場見学会 門入ダム展望台

日 時 平成8年4月28日(日) AM10:00~PM3:00(晴)
参加者 500~600名
行 事 測量機器での測量
距離当てクイズ 2回(1回目 88票, 2回目 86票)
メモリアルストーン 150個
写生及び写真コンテスト 90作品

山田中学校 現場見学(1年生)

日 時 平成8年5月29日(水) AM9:00~AM10:30
参加者 253名

高松報道責任者会現地視察

日 時 平成8年6月18日(火) PM2:00~PM2:30
参加者 15名

香川県土地改良事務所見学会

日 時 平成8年7月9日
参加者 20名

「森と湖に親しむ県政バス」

日 時 平成8年7月24日(水) AM10:00~AM10:40
参加者 100名

県政バス(城東町南部自治会)

日 時 平成8年8月7日(水) AM10:10~AM11:00
参加者 50名

校外学習

日 時 平成8年10月15日(火) AM8:30~PM2:30
参加者 145名
行 事 門入ダム写生会

ダム工学会 ダム現地見学会

日 時 平成8年10月24日(木) PM2:00~PM3:00
参加者 55名

建設コンサルタント見学会

日 時 平成8年12月10日 PM1:30~PM4:30
参加者 20名

門入ダム工事誌

石田婦人会員研修

日 時 平成9年3月15日(土) AM10:10~AM10:40

参加者 96名

香川県広報協会PR研究部会見学研修会

日 時 平成9年3月26日(水) PM2:15~PM2:45

参加者 20名

広域交流バスツアー

日 時 平成9年5月14・15・16・21日 PM1:50~PM2:10

参加者 総数160名

山田中学校 現場見学(1年生)

日 時 平成9年5月26日(月) AM9:00~AM10:30

参加者 274名

第3回門入ダム現場見学会 山上公園祭

日 時 平成9年11月9日(日) AM9:00~PM3:00

行 事 距離当てクイズ

ビンゴゲーム

○×クイズ

写生大会

落書きコーナー

「森と湖に親しむ県政バス」

日 時 平成10年7月21日(火) PM1:10~PM2:10

参加者 100名

石田小学校 現場見学会

日 時 平成10年10月28日

参加者 156名

あ と が き

門入ダムは、昭和55年度から実施計画調査を開始し、平成元年度から建設事業に着手し、19年の歳月をかけて平成10年度に事業が完了しました。

本ダムの特徴としては、ダム軸上流100mに灌漑用溜め池である門入池があり、その灌漑機能を維持しながらの工事となったことです。具体的には、堤体掘削時の発破振動が門入池堤体に悪影響を及ぼさないように、火薬の使用量を調節するなど慎重に工事を進めました。また、工事期間中も農業用水を補給するため、ダム堤体内に直径800mmの導水管を埋め込み、ダム工事に関係なく農業用水の補給を可能にしました。

また、ダム直下に集落を抱えており、寒川町市街地から約2kmと非常に近いことから、ダム下流面に石積模様の化粧型枠やライトアップ設備を採用して環境面への工夫を凝らしています。

さらに、地元寒川町が主体となって、「門入ダム周辺環境整備推進協議会」を設立し、門入ダム周辺環境整備事業についていろいろな要望を提案していただきました。門入ダムから貯水池上流約2kmにある町営カメラア温泉までの区間を「門入の郷」と命名し、香川県と寒川町が一体となって周辺環境整備を実施しております。ダム周辺には「水と緑に囲まれたカメラアの里づくり」を整備テーマとして、緑を中心とした公園が6箇所完成しております。

次に、さまざまな形で住民参加によるダムづくりを進めてまいりました。寒川町立天王中学校生徒のデザインにより、ダム下流フーチングに寒川町の四季をイメージしたタイル舗装を行い、遊歩道として整備しました。

また、周辺環境整備の一環として、地元自治会、寒川町老人会・婦人会、寒川町内の小中学校生によるダム貯水池周辺の公園に記念植樹を実施し、ダム事業へ参加していただきました。

このようにして、地域住民に親しまれるダムづくりを進めて参りました。また、事業実施期間中にはさまざまな問題が発生しましたが、その都度、寒川町をはじめ地元関係者の方々のダム建設事業に対するご理解とご協力により解決することができ、平成11年3月にダムが完成することができました。

ダム建設にあたっては、計画・設計・用地買収・施工管理・諸手続きなど大変苦慮することになります。また、新技術などの導入などもあることから、技術の積み重ねが重要になってきます。このようなことから、門入ダム建設に関する記録を出来るだけ忠実に残し、ささやかでも何らかの役に立ってくれればと思い、今回の工事誌をまとめることとし

門入ダム工事誌

ました。何分にも執筆不慣れな者のため内容が不十分なところもあり、読者の意に添えないところも多くあると思いますが、お許しを賜りたいと存じます。

最後になりましたが、門入ダム建設にあたって、建設省をはじめ、用地を提供し協力してくださった方々、事業を側面から援助してくださった地元関係者の方々、及び工事関係者の方々に感謝し、このダムが、寒川町をはじめ香川県東讃地域の地域活性化の核となり、地域の発展に寄与することを願ってやみません。

平成11年 6 月

香川県長尾土木事務所長

開発課最終課員